

3. 投資信託保有状況(全体・現在保有者)

(1) 投資信託の保有状況(全体)

投資信託の保有状況を見ると、「現在持っている」は10.1%である。「以前持っていたが、現在は持っていない」は5.1%で、「これまで持ったことがない・無回答」は84.8%を占める。

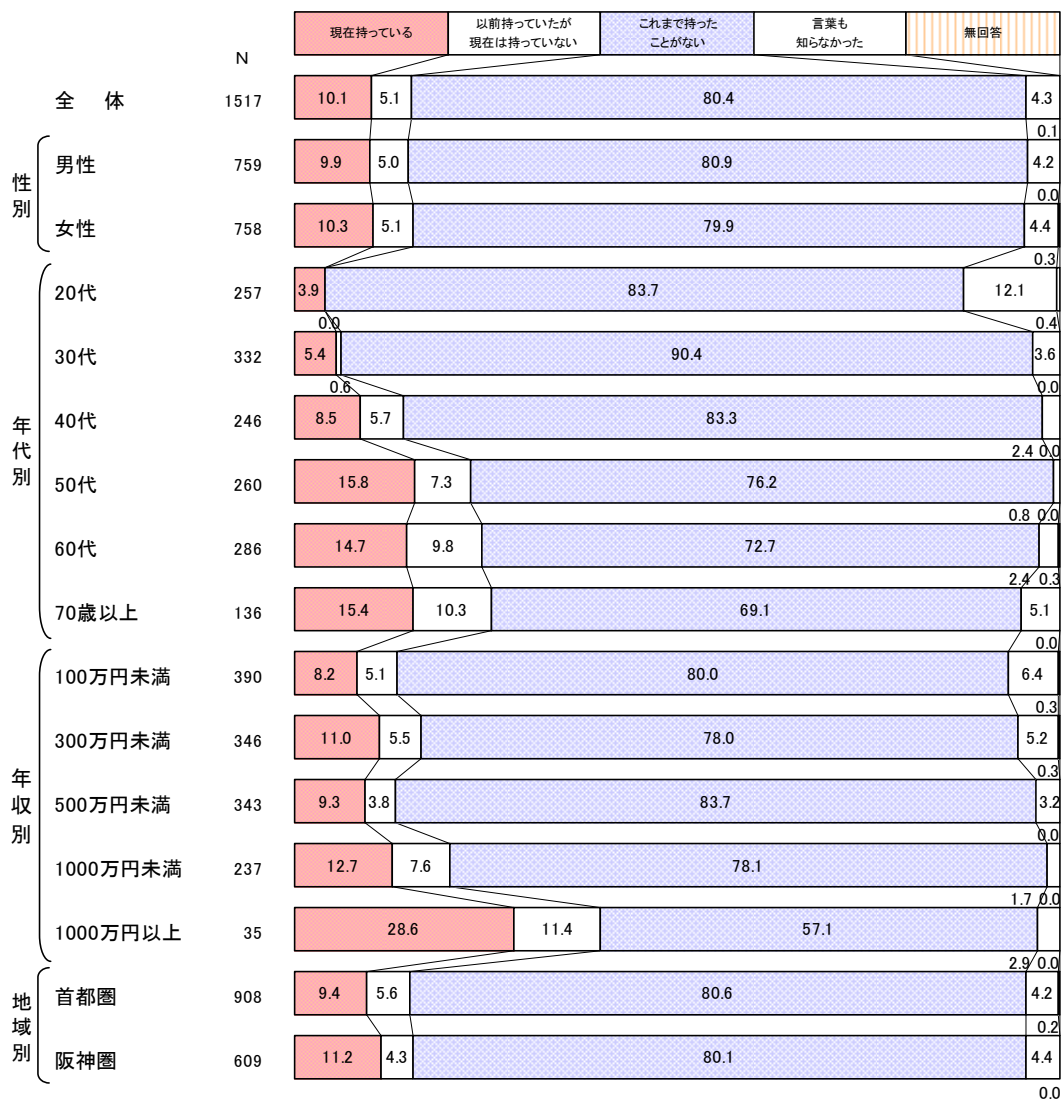
対象者属性別にみると、性別では保有状況に大きな差はみられない。

年代別でみると、50代以上では「現在持っている」が15%前後と40代以下に比べて高く、40代以下は年代が下がるほど低くなっている。

年収別でみると、1000万円以上の層では「現在持っている」が28.6%と突出している。

なお、地域別では大きな差はみられない。

【投資信託の保有状況(単数回答)／対象者属性別－全体ベース】



【参考：平成17年調査結果】

※平成19年調査から調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

(N=1510)	
現在持っている	12.8
以前持っていたが現在は持っていない	9.0
これまで持ったことがない	78.2

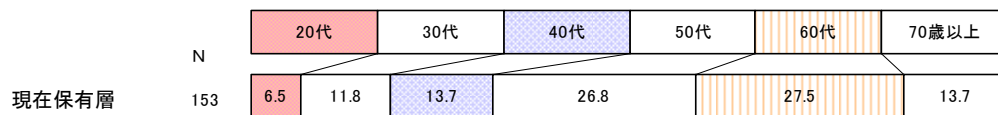
(2) 投資信託保有者の特徴(現在保有層)

次に、現在投資信託を保有している人(現在保有層)の特徴をみる。

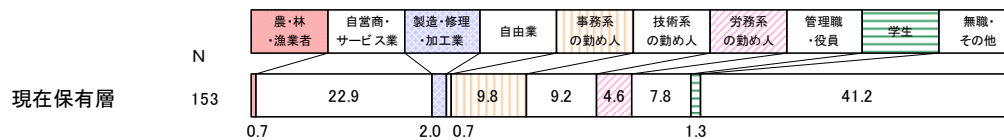
年齢別構成比は「50代」(26.8%)と「60代」(27.5%)が他の年代に比べて高く、50代以上が70%弱を占めている。

また、職業別構成比をみると、「無職・その他」が41.2%で最も高く、次いで「自営商・サービス業」が22.9%となっている。

【投資信託現在保有層の年齢別構成比(単数回答)】



【投資信託現在保有層の職業別構成比(単数回答)】



(3) 投資信託の保有種類(現在保有層)

現在保有層における投資信託保有種類をみると、「株式投資信託」が56.9%で最も高い。以下、「公社債投資信託」が37.3%、「外国で作られた投資信託」が30.7%で続いている。

投資信託保有種類数(重複回答分)を、回答サンプルで除して求めた平均保有種類数は、1.59種類である。

性別でみると、「外国で作られた投資信託」は男性より女性の保有率が高い。

なお、参考までに、投資信託の種類別保有率を調査対象全体ベースで換算すると、「株式投資信託」は5.7%となる。以下、「公社債投資信託」は3.8%、「外国で作られた投資信託」は3.1%などとなっている。

【投資信託の保有種類(重複回答)／対象者属性別—現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	株式 投資信託	公社債 投資信託	外国で 作られた 投資信託	不動産投信	ETF	種類不明	平均保有 種類数
全 体		153 100.0	87 56.9	57 37.3	47 30.7	26 17.0	10 6.5	10 6.5	1.59
性別	男 性	75 100.0	42 56.0	29 38.7	18 24.0	10 13.3	6 8.0	6 8.0	1.52
	女 性	78 100.0	45 57.7	28 35.9	29 37.2	16 20.5	4 5.1	4 5.1	1.65
年 代 別	20代	10 100.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0	- -	4 40.0	1.67
	30代	18 100.0	9 50.0	8 44.4	8 44.4	1 5.6	2 11.1	- 0.0	1.56
	40代	21 100.0	8 38.1	6 28.6	7 33.3	2 9.5	2 9.5	4 19.0	1.47
	50代	41 100.0	26 63.4	20 48.8	16 39.0	10 24.4	3 7.3	- -	1.83
	60代	42 100.0	25 59.5	11 26.2	9 21.4	5 11.9	1 2.4	1 2.4	1.24
	70歳以上	21 100.0	16 76.2	8 38.1	6 28.6	6 28.6	2 9.5	1 4.8	1.90
	年 収 別	100万円未満	32 100.0	17 53.1	12 37.5	10 31.3	7 21.9	1 3.1	2 6.3
300万円未満	38 100.0	20 52.6	10 26.3	11 28.9	6 15.8	2 5.3	3 7.9	1.40	
500万円未満	32 100.0	20 62.5	11 34.4	11 34.4	6 18.8	5 15.6	1 3.1	1.71	
1000万円未満	30 100.0	14 46.7	14 46.7	8 26.7	3 10.0	1 3.3	3 10.0	1.48	
1000万円以上	10 100.0	7 70.0	5 50.0	4 40.0	- -	1 10.0	1 10.0	1.89	

【投資信託種類別保有率(重複回答)／全体ベース】

	全 体	株式 投資信託	公社債 投資信託	外国で 作られた 投資信託	不動産投信	ETF	種類不明
全体	1517	5.7	3.8	3.1	1.7	0.7	0.7

(4) 投資信託の購入額(現在保有層)

現在保有層における投資信託の保有種類別平均購入額をみると、「外国で作られた投資信託」が390.4万円でもっと高く、次いで「株式投資信託」が342.9万円となっている。「公社債投資信託」は259.8万円でもっと低い。なお、1人あたりの合計購入額の平均は432.2万円である。

【保有種類別投資額(単数回答)－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	(上段:N)(下段:%)							平均投資額 (万円)
	全 体	100万円未満	300万円未満	500万円未満	1000万円未満	1000万円以上	投資額不明	
株式投資信託	87 100.0	23 26.4	29 33.3	18 20.7	10 11.5	5 5.7	2 2.3	342.9
公社債投資信託	57 100.0	17 29.8	22 38.6	12 21.1	4 7.0	1 1.8	1 1.8	259.8
外国で作られた投資信託	47 100.0	14 29.8	14 29.8	9 19.1	5 10.6	5 10.6	0 0.0	390.4
不動産投信	26 100.0	7 26.9	7 26.9	7 26.9	3 11.5	1 3.8	1 3.8	332.0
ETF	10 100.0	2 20.0	6 60.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	320.0
合計購入額	153 100.0	26 17.0	37 24.2	20 13.1	20 13.1	12 7.8	38 24.8	432.2

(5) 株式投資信託の保有種類と購入額(現在保有層のうち株式投資信託保有者)

現在保有層のうち、株式投資信託保有者のいる株式投資信託の種類は「国内の株式に主に投資する株式投信」が51.7%で最も高く、これに「外国債券に主に投資する株式投信」が32.2%で続く。

株式投資信託の保有種類数(重複回答分)を、回答サンプルで除して求めた平均保有種類数は、1.60種類である。

なお、N数(サンプル数)が少ないため参考データとなるが、株式投資信託の保有種類別平均購入額を以下に掲載した。

【株式投資信託の種類別保有率(重複回答)／対象者属性別

－現在保有層・株式投資信託者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	国内株式に 主に投資する 株式投信	外国債券に 主に投資する 株式投信	様々な資産に 投資する 株式投信	外国株式に 主に投資する 株式投信	不動産投信に 主に投資する 株式投信	その他	投資先不明	平均保有 種類数	
全 体	87 100.0	45 51.7	28 32.2	17 19.5	13 14.9	9 10.3	3 3.4	15 17.2	1.60	
性 別	男 性	42 100.0	22 52.4	11 26.2	7 16.7	5 11.9	2 4.8	9 21.4	1.48	
	女 性	45 100.0	23 51.1	17 37.8	10 22.2	8 17.8	7 15.6	1 2.2	6 13.3	1.69
年 代 別	20代	3 100.0	1 33.3	—	—	1 33.3	—	1 33.3	—	1.00
	30代	9 100.0	4 44.4	2 22.2	—	2 22.2	—	1 22.2	2 1.29	
	40代	8 100.0	4 50.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	—	—	2 25.0	1.50
	50代	26 100.0	14 53.8	14 53.8	8 30.8	1 3.8	4 15.4	1 3.8	3 11.5	1.83
	60代	25 100.0	11 44.0	6 24.0	3 12.0	3 12.0	1 4.0	—	7 28.0	1.33
	70歳以上	16 100.0	11 68.8	5 31.3	4 25.0	4 25.0	4 25.0	—	1 6.3	1.87
	年 取 別	100万円未満	17 100.0	10 58.8	3 17.6	5 29.4	2 11.8	2 11.8	1 5.9	1 5.9
300万円未満	20 100.0	7 35.0	6 30.0	3 15.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	7 35.0	1.54	
500万円未満	20 100.0	10 50.0	7 35.0	3 15.0	6 30.0	2 10.0	1 5.0	4 20.0	1.81	
1000万円未満	14 100.0	8 57.1	5 35.7	4 28.6	3 21.4	1 7.1	—	—	1.50	
1000万円以上	7 100.0	5 71.4	4 57.1	—	—	—	—	2 28.6	1.80	

【株式投資信託の保有種類別投資額(単数回答)－現在保有層・株式投資信託者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	100万円未満	300万円未満	500万円未満	1000万円未満	1000万円以上	投資額不明	平均投資額 (万円)
国内株式	45 100.0	15 33.3	19 42.2	8 17.8	0 0.0	2 4.4	1 2.2	244.3
外国債券	28 100.0	7 25.0	8 28.6	7 25.0	4 14.3	1 3.6	1 3.6	342.6
様々な資産	17 100.0	3 17.6	8 47.1	3 17.6	3 17.6	0 0.0	0 0.0	305.9
外国株式	13 100.0	6 46.2	2 15.4	2 15.4	1 7.7	1 7.7	1 7.7	312.5
不動産投信	9 100.0	1 11.1	3 33.3	2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	462.5
その他	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	50.0

4. 投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)

(1) 投資信託購入のきっかけ

投資信託を購入したきっかけは、「証券会社や銀行等の人から勧められて」が 59.6%で最も高く、他のきっかけに大きな差をつけている。以下、「家族・友人から良いという話を聞いて」(22.2%)、「商品広告等を見て良さそうだったので」(14.8%)、「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」(11.3%)が 10%台で続いている。

対象者属性別にみると、性別では大きな差はみられない。

年代別では、50 代以上の“中高年層”では「証券会社や銀行等の人から勧められて」が他の理由に比べて特に高い。また、「商品広告等を見て良さそうだったので」は 40 代を中心とした層で高い。

年収別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」が 300 万円以上 500 万円未満の層で特に高い。「商品広告等を見て良さそうだったので」は 500 万円以上 1000 万円未満の層で特に高い。

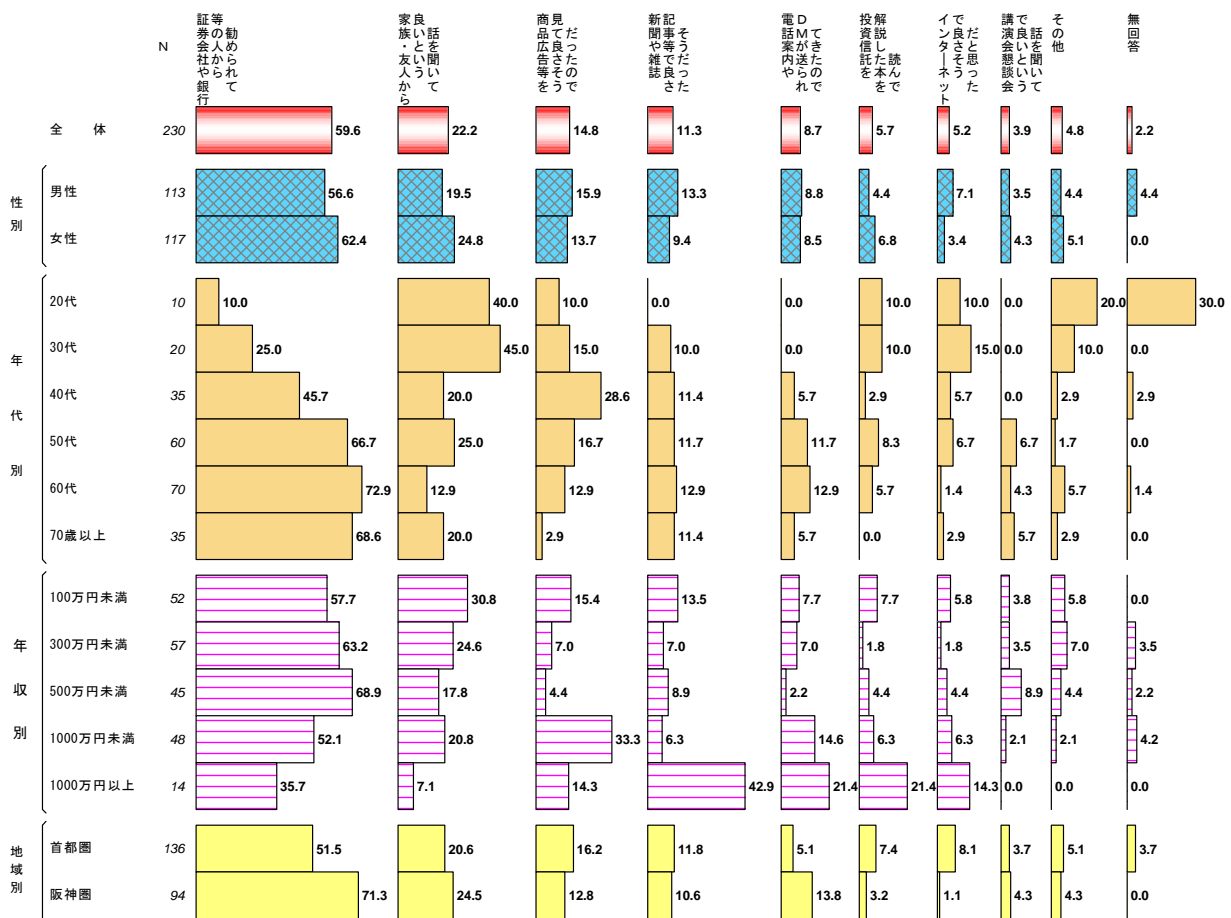
地域別にみると、首都圏は阪神圏に比べ「証券会社や銀行等の人から勧められて」購入した率が高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有の有無によって大きな差はみられない。

投資信託保有種類別(現在保有層のみ)では、N数(サンプル数)が少ないため参考データとなるが、公社債投資信託のみ保有層では「家族・友人から良いという話を聞いて」が他の層に比べ高い傾向がみられる。

【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



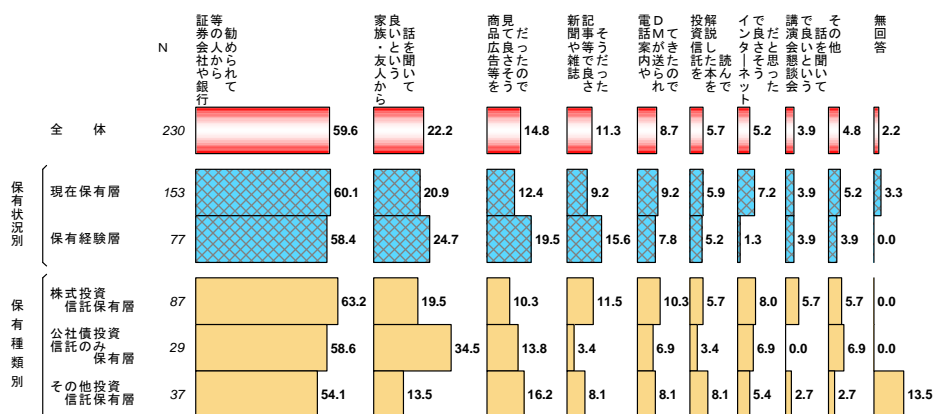
【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

注)投資信託保有種類別については回答結果をもとに以下のグループに分類した。

- ①『株式投資信託保有層』=株式投資信託保有者
- ②『公社債投資信託のみ保有層』=「公社債投資信託」のみ保有者(①は除く)
- ③『その他投資信託保有層』=①と②を除く投資信託保有者

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



(2) 投資信託の購入金融機関

投資信託を購入した金融機関は、「証券会社」が 57.0%と過半数を占め最も高く、次いで「銀行等の金融機関」が 42.2%と高い。この2つ以外は10%未満となっている。

対象者属性別でみると、性別では大きな差はみられない。

年代別では、年代が上がるほど「証券会社」が高くなっているが、「銀行等の金融機関」は高齢層で低い傾向がみられる。

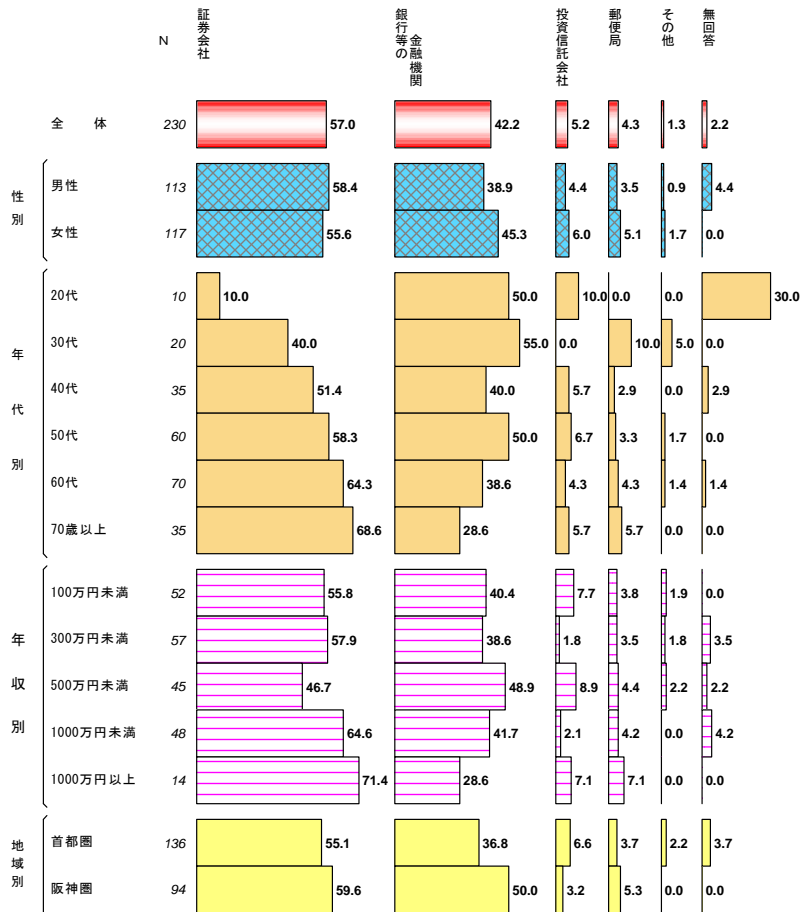
地域別にみると、「証券会社」では差がみられないが、「銀行等の金融機関」は首都圏に比べ阪神圏の方が高い。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は「銀行等の金融機関」(53.6%)が最も高く、これに「証券会社」(45.8%)が続く。一方、保有経験層では「証券会社」(79.2%)が圧倒的に高い。

投資信託保有種類別でみると、「証券会社」では大きな差はみられないが、「銀行等の金融機関」は株式投資信託保有層が他層に比べて高い。

【投資信託の購入金融機関(重複回答)／対象者属性別－現在保有層・保有経験層ベース】

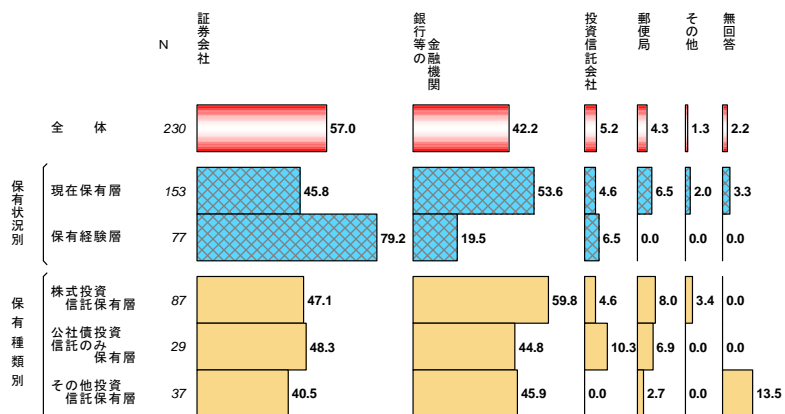
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



【投資信託の購入金融機関(重複回答)／保有状況・保有種類別

ー現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



(3) 販売員の説明・勧誘方法

①販売員の説明・勧誘方法への満足状況

投資信託を購入した際の販売員の説明・勧誘方法への満足状況は、「とても満足した」(5.2%)、「まあ満足した」(43.9%)を合わせた“満足層”は49.1%とほぼ半数を占めるが、「あまり満足しなかった」(4.8%)と「まったく満足しなかった」(3.0%)を合わせた“不満層”は7.8%と低い。「とても満足した」から「まったく満足しなかった」まで、5点から1点の得点を与えて平均値を算出したところ、3.5点となった。

対象者属性別にみると、“満足層”は性別や年収別、地域別には大きな差はみられないが、年代別では50代の“満足層”がやや高い傾向がみられる。

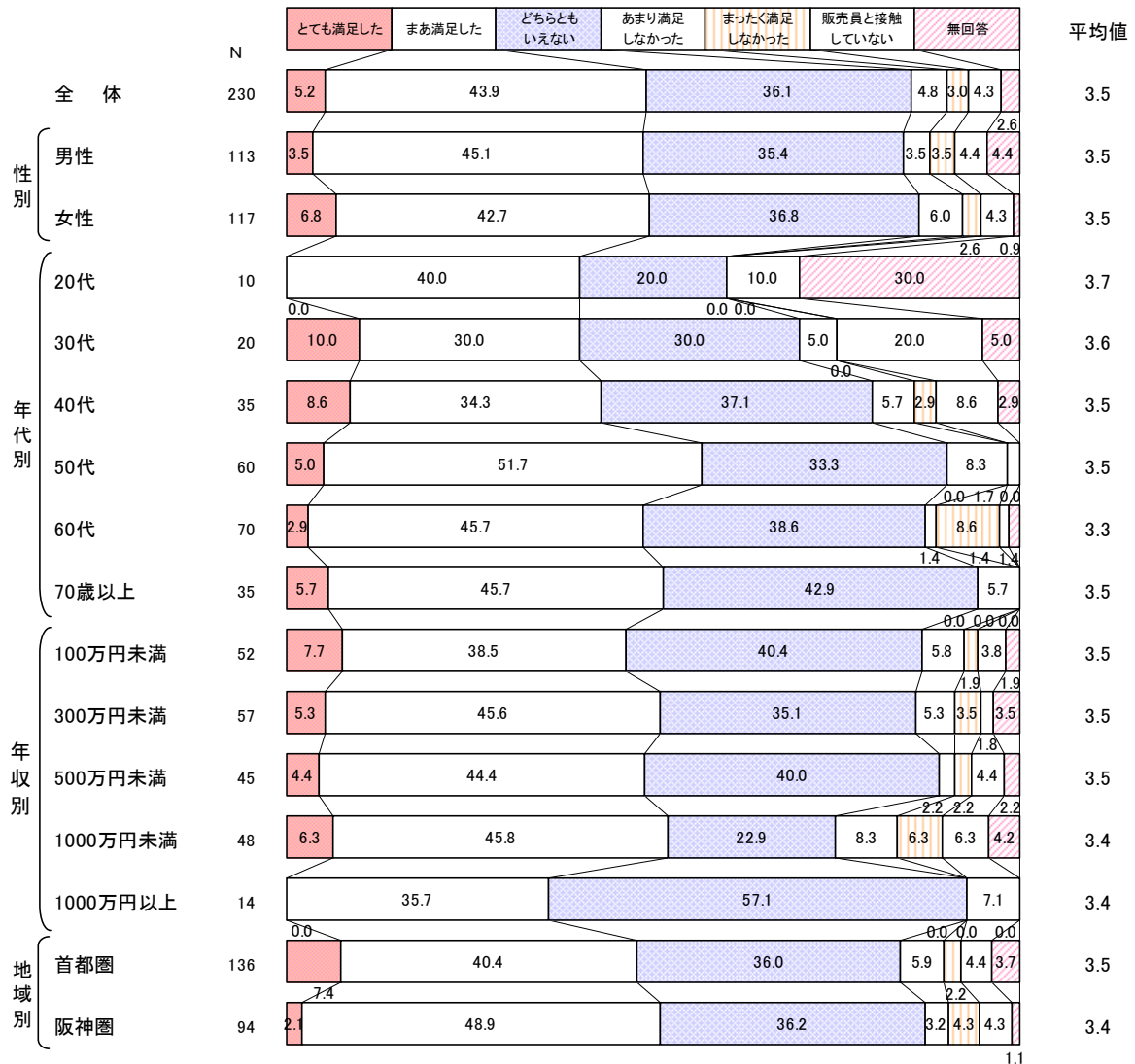
投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べて“満足層”が高い。

投資信託保有種類別では、“満足層”は株式投資信託保有層が最も高く、次いで公社債投資信託保有層、その他投資信託保有層の順となっている。

【販売員の説明・勧誘方法への満足状況(単数回答)／対象者属性別

－現在保有層・保有経験層ベース

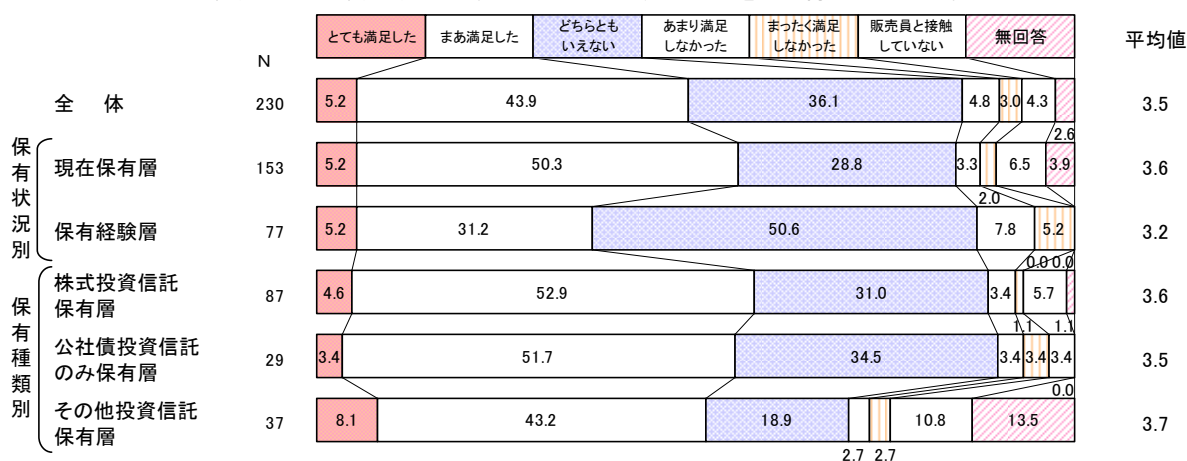
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



【販売員の説明・勧誘方法への満足状況(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要



【参考：平成17年調査結果】

※平成19年調査から調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

(N=329)

とても満足した	1.5
まあ満足した	43.2
どちらともいえない	40.1
あまり満足しなかった	7.3
まったく満足しなかった	2.7
販売員と接触していない	4.6
無回答	0.6

②販売員の説明・勧誘方法への満足理由(現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者)

現在保有層・保有経験層のうち、販売員の説明・勧誘方法満足者に満足した理由を尋ねたところ、「商品のリスクもきちんと説明した」が 63.7%で最も高く、次いで「商品の魅力をわかりやすく説明した」(58.4%)も半数以上となっている。一方、「自分のニーズにあった商品を勧めた」「質問にきちんと答えてくれた」はともに20%台となっている。

対象者属性別にみると、「商品の魅力をわかりやすく説明した」では男性より女性の方が高い。

なお、投資信託保有状況別ならびに投資信託保有種類別は、N数(サンプル数)が少ないため、参考データとして以下に掲載した。

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／対象者属性別

ー現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

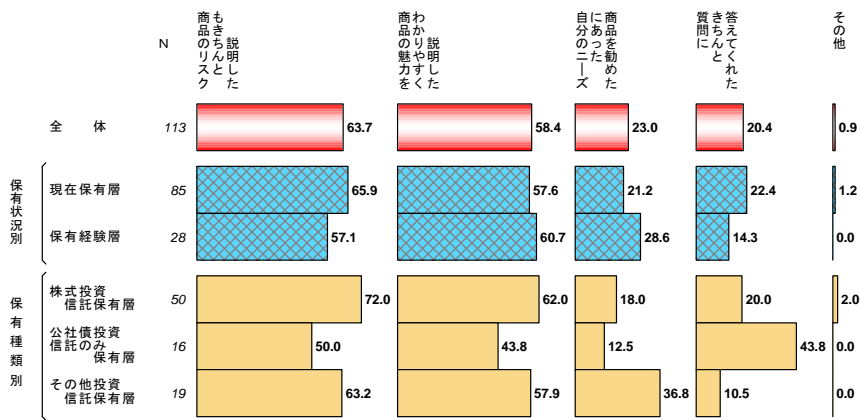
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		(上段:N)(下段:%)					
		全 体	商品のリスクもきちんと説明した	商品の魅力をわかりやすく説明した	自分のニーズにあった商品を勧めた	質問にきちんと答えてくれた	その他
全 体		113 100.0	72 63.7	66 58.4	26 23.0	23 20.4	1 0.9
性別	男 性	55 100.0	34 61.8	25 45.5	13 23.6	13 23.6	1 1.8
	女 性	58 100.0	38 65.5	41 70.7	13 22.4	10 17.2	-
年代別	20代	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	-
	30代	8 100.0	4 50.0	6 75.0	3 37.5	1 12.5	-
	40代	15 100.0	10 66.7	10 66.7	3 20.0	1 6.7	-
	50代	34 100.0	27 79.4	16 47.1	2 5.9	10 29.4	1 2.9
	60代	34 100.0	22 64.7	22 64.7	9 26.5	7 20.6	-
	70歳以上	18 100.0	8 44.4	10 55.6	8 44.4	2 11.1	-
	年収別	100万円未満	24 100.0	12 50.0	14 58.3	6 25.0	6 25.0
300万円未満		29 100.0	20 69.0	19 65.5	7 24.1	4 13.8	-
500万円未満		22 100.0	15 68.2	13 59.1	8 36.4	4 18.2	-
1000万円未満		25 100.0	15 60.0	14 56.0	4 16.0	4 16.0	-
1000万円以上		5 100.0	3 60.0	-	-	4 80.0	1 20.0
地域別	首都圏	65 100.0	40 61.5	40 61.5	14 21.5	13 20.0	-
	阪神圏	48 100.0	32 66.7	26 54.2	12 25.0	10 20.8	1 2.1

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【参考：平成17年調査結果】

※平成19年調査から調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

(N=147)

商品リスクもきちんと説明した	51.0
商品の魅力をわかりやすく説明した	42.9
質問にきちんと答えてくれた	32.7
自分のニーズにあった商品を勧めた	19.0
その他	1.4
無回答	-

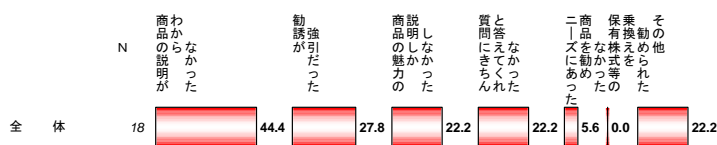
③販売員の説明・勧誘方法への不満理由(現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法不満者)

販売員の説明・勧誘方法不満者の不満理由については、N数(サンプル数)が少ないため、参考データとなるが、「商品の説明がわからなかった」(44.4%)が最も高く、次いで「勧誘が強引だった」(27.8%)、「商品の魅力の説明しかなかった」「質問にきちんと答えてくれなかった」(ともに22.2%)がほぼ同率で並んでいる。

【販売員の説明・勧誘への不満理由(重複回答)】

－現在保有層・保有経験層のうち、説明・勧誘方法不満者ベース】

※N数(サンプル数)が少ないため、データを見る際に注意が必要。



(4) 投資信託購入の決め手

投資信託を購入する決め手となったのは、「安全性の高さ」(37.4%)、「分配の頻度・実績」(36.5%)、「過去の運用実績」(35.7%)、「値上がり期待」(31.3%)の4項目がほぼ同率で並んでいる。次いで「換金のしやすさ」(12.6%)が続き、「特に考えず勧めで」購入した人も12.2%みられる。

対象者属性別でみると、性別では大きな差はみられない。

年代別では、「値上がり期待」が60代で40.0%と最も高い。また、「過去の運用実績」は50代で45.0%と最も高いが、年代が上がるにつれて低下する。

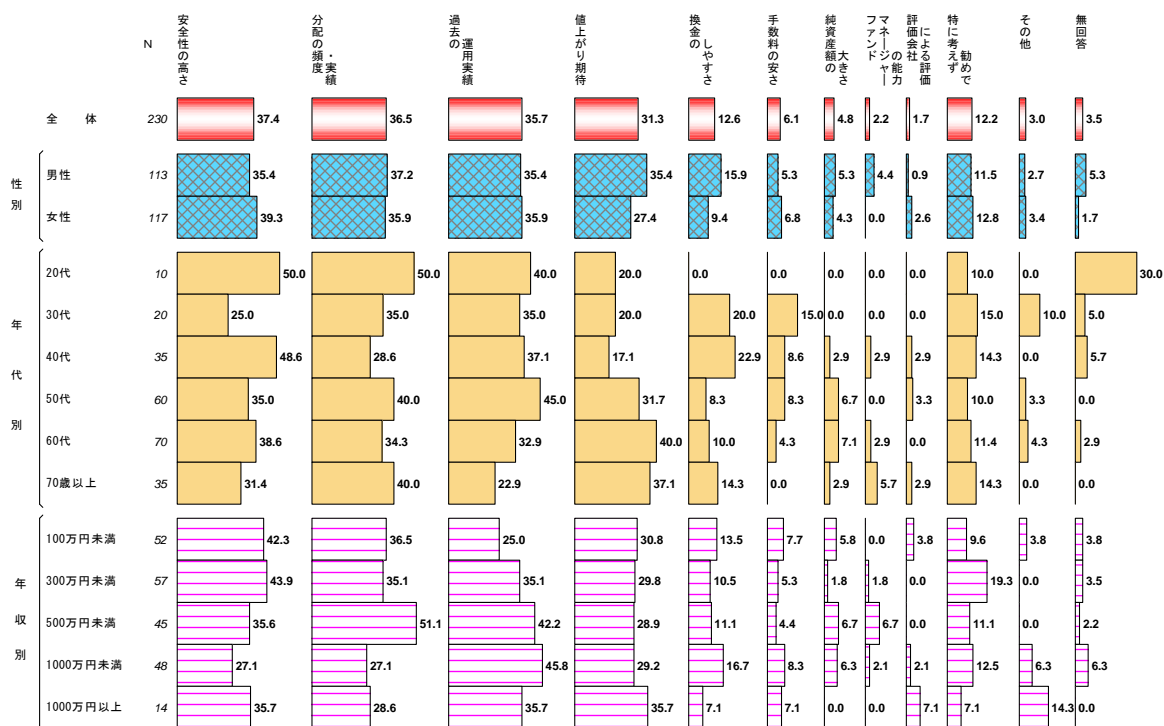
年収別では、「安全性の高さ」は100万円未満、100万円以上300万円未満の収入が低い層で高く、「過去の運用実績」は100万円未満の層で最も低く、500万円以上1000万円未満の層までは年収が上がるにつれて高くなる。「分配の頻度・実績」は300万円以上500万円未満の中間層で高い。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べて「分配の頻度・実績」や「過去の運用実績」が高いが、「値上がり期待」や「特に考えず勧めで」は低い。

投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層では「分配の頻度・実績」が他層より高い。公社債投資信託のみ保有層は「安全性の高さ」(65.5%)と「換金のしやすさ」(24.7%)が他層より高く、「値上がり期待」(13.8%)は低い傾向がみられる。

【投資信託購入の決め手(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

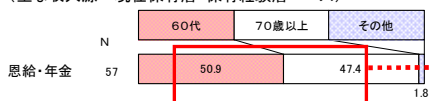
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



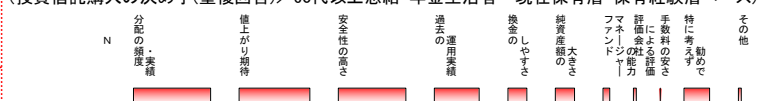
【参考】

60代以上の恩給・年金生活者では、「分配の頻度・実績」(42.9%)が最も高く、「値上がり期待」(39.3%)、「安全性の高さ」(37.5%)が続く。

(主な収入源—現在保有層・保有経験層ベース)



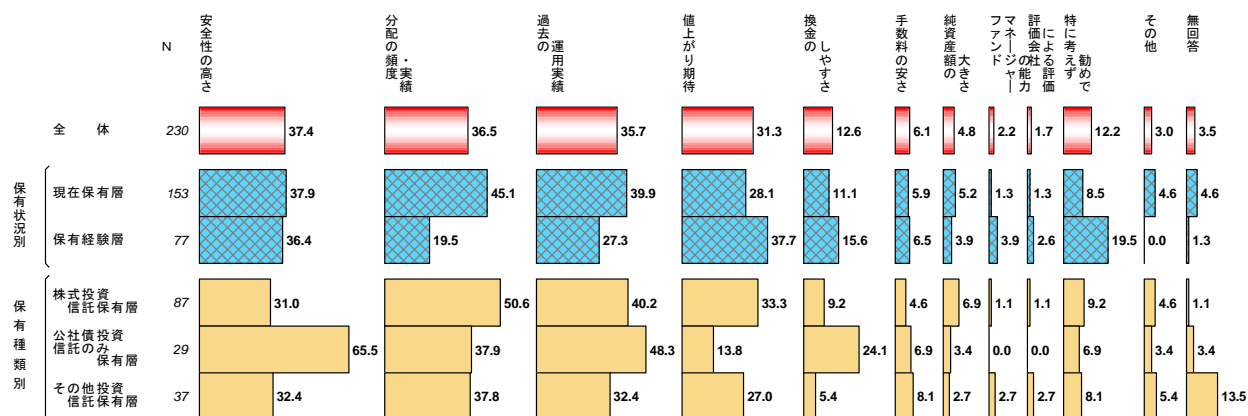
(投資信託購入の決め手(重複回答)／60代以上恩給・年金生活者—現在保有層・保有経験層ベース)



【投資信託購入の決め手(重複回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【参考：平成17年調査結果】

※平成19年調査から調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

	(N=329)
安全性の高さ	41.3
値上がり期待	34.7
過去の運用実績	26.1
換金のしやすさ	20.1
分配の頻度・実績	16.7
手数料の安さ	5.5
純資産額の大きさ	4.3
評価会社による評価	4.3
ファンドマネージャーの能力	2.4
特に考えず勧めで	13.7
その他	2.7
無回答	1.2

(5) 投資信託の購入資金

投資信託の購入資金は、「定期性の預貯金等から」が45.2%で最も高く、「月々の収入から」(27.8%)が続く。「退職金・相続などの臨時収入から」「ボーナスから」「株式・債券等をお金」は10%台となっている。

対象者属性別でみると、性別では、男女ともに「定期性の預貯金から」「月々の収入から」が他の項目に比べて高いが、「定期性の預貯金から」は女性の方が、「月々の収入から」は男性の方が高い。

年代別では、「定期性の預貯金から」は50代が最も高く、それ以外の層では低い。「月々の収入から」は30代以下の“若年層”が他層に比べて高い。

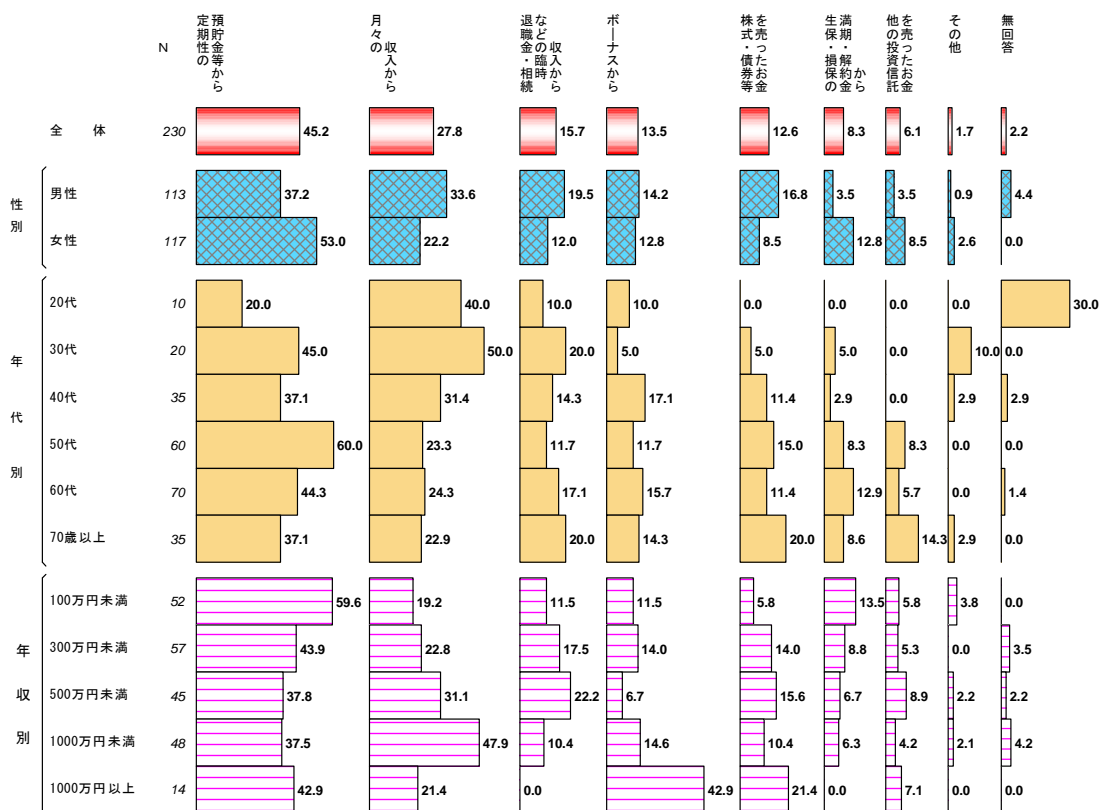
年収別では、年収が低い層で「定期性の預貯金から」が、年収が高い層では「月々の収入から」が高い傾向にある。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層では「定期性の預貯金等から」(47.7%)が最も高く、「月々の収入から」「退職金・相続などの臨時収入から」が20%台で並んでおり、「ボーナスから」は10%未満となっている。一方、保有経験層は現在保有層に比べ「月々の収入から」や「ボーナスから」が高く、「退職金・相続などの臨時収入から」は5%未満である。

投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層は「退職金・相続などの臨時収入から」、公社債投資信託のみ保有層では「株式・債券等をお金」が他層に比べて高い傾向がみられる。

【投資信託の購入資金(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

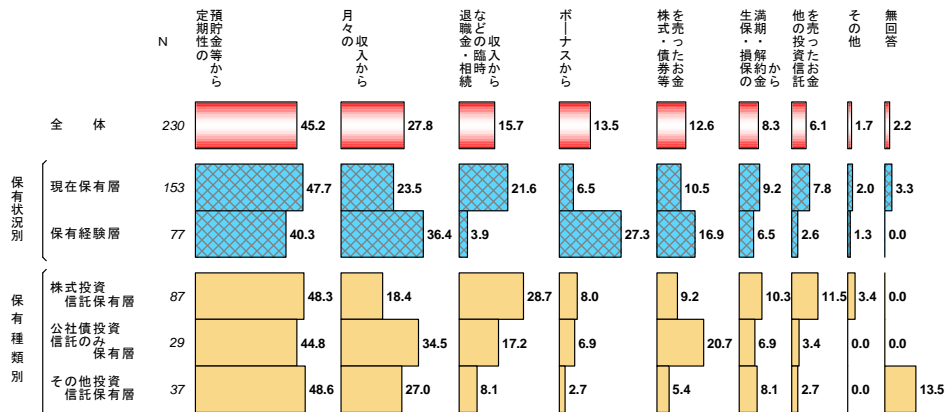
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の購入資金(重複回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(6) 投資信託の購入目的

投資信託を購入した目的は、「特に目的はないが資金を増やしたいため」が 34.3%と高いが、これを除く具体的な目的の中では「老後の生活資金」が 32.2%で最も高い。これに「資産のリスク分散」(23.0%)が続く。

対象者属性別にみると、性別では男性は女性に比べ「資産のリスク分散」が高く、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は低い。

年代別では、「老後の生活資金」や「資産のリスク分散」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

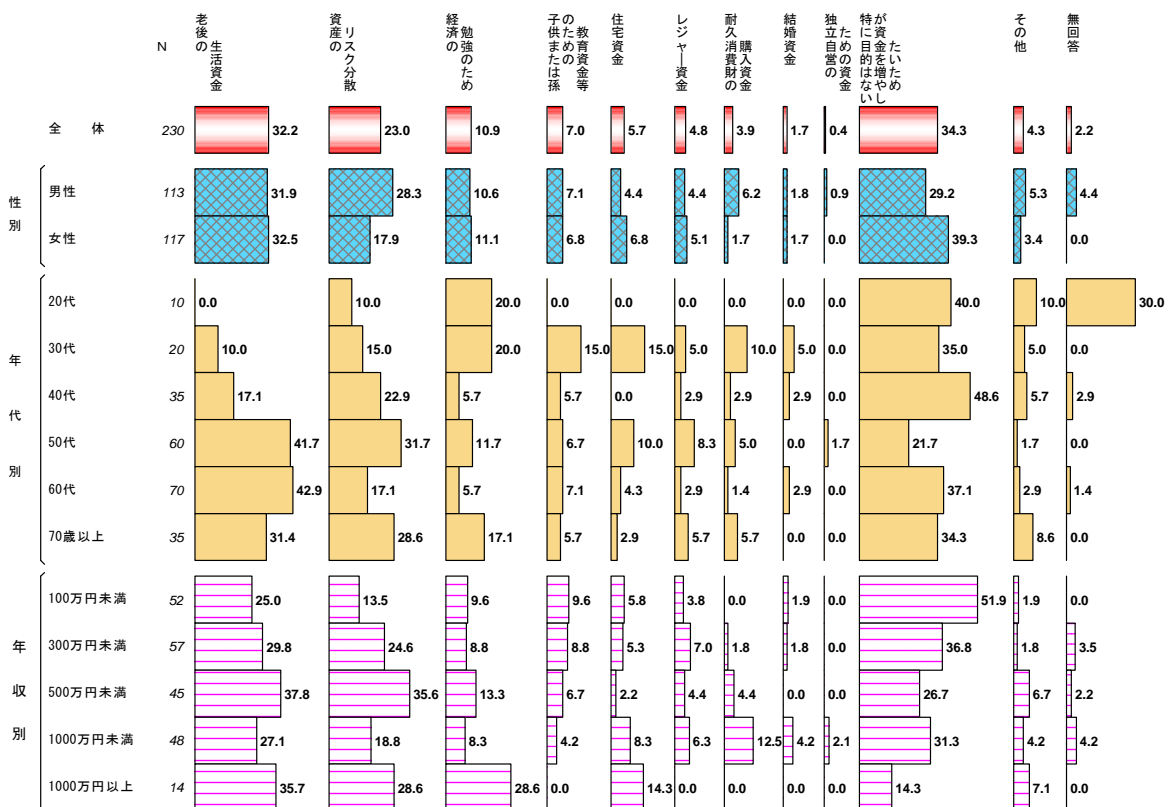
年収別では、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は年収が低い層ほど高くなっている。「老後の生活資金」や「資産のリスク分散」は年収が高い層ほど高くなる。500万円以上1000万円未満の層ではこの2つの目的は他層に比べると低いが、「耐久消費財の購入資金」など他の目的への広がりがみられる。

投資信託保有状況別に購入目的をみると、現在保有層は「老後の生活資金」が 40.5%と圧倒的に高い。一方、保有経験層では「特に目的はないが資金を増やしたいため」が 46.8%とほぼ半数を占めている。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「老後の生活資金」(47.1%)と「資産のリスク分散」(34.5%)が高く、「特に目的はないが資金を増やしたいため」(20.7%)が低い。一方、公社債投資信託のみ保有層は「老後の生活資金」(44.8%)と「特に目的はないが資金を増やしたいため」(41.4%)が高く、「資産のリスク分散」(10.3%)が低い。その他投資信託保有層では「特に目的はないが資金を増やしたいため」(35.1%)が最も高い。

【投資信託の購入目的(重複回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

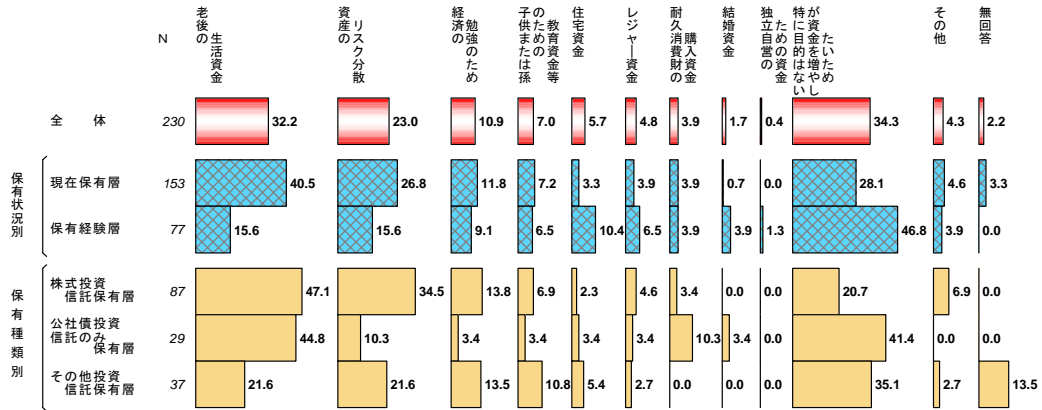
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入目的(重複回答)／保有状況・保有種類別

ー現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(7) 投資信託の運用実績評価

投資信託の運用実績評価を尋ねると、「期待した以上だった」は9.1%、「期待通りの実績だった」は31.7%であり、これらを合わせた“期待以上”は40.8%である。一方、「期待していたよりもやや悪かった」は14.8%、「全く期待はずれだった」は13.5%であり、これらを合わせた“期待以下”は28.3%であり、“期待以上”の方が高い。また、「なんともいえない」は28.3%となっている。

対象者属性別でみると、性別では男性は女性に比べて“期待以上”が高いが、女性では「なんともいえない」が男性に比べて高い。

年代別にみると、70歳以上では“期待以上”が過半数と特に高い。40代以下の層では「なんともいえない」が30~40%程度と50代以上に比べて高い。

年収別では、年収が低いほど「なんともいえない」が高いが、500万円以上1000万円未満の層では“期待以下”がやや高い。

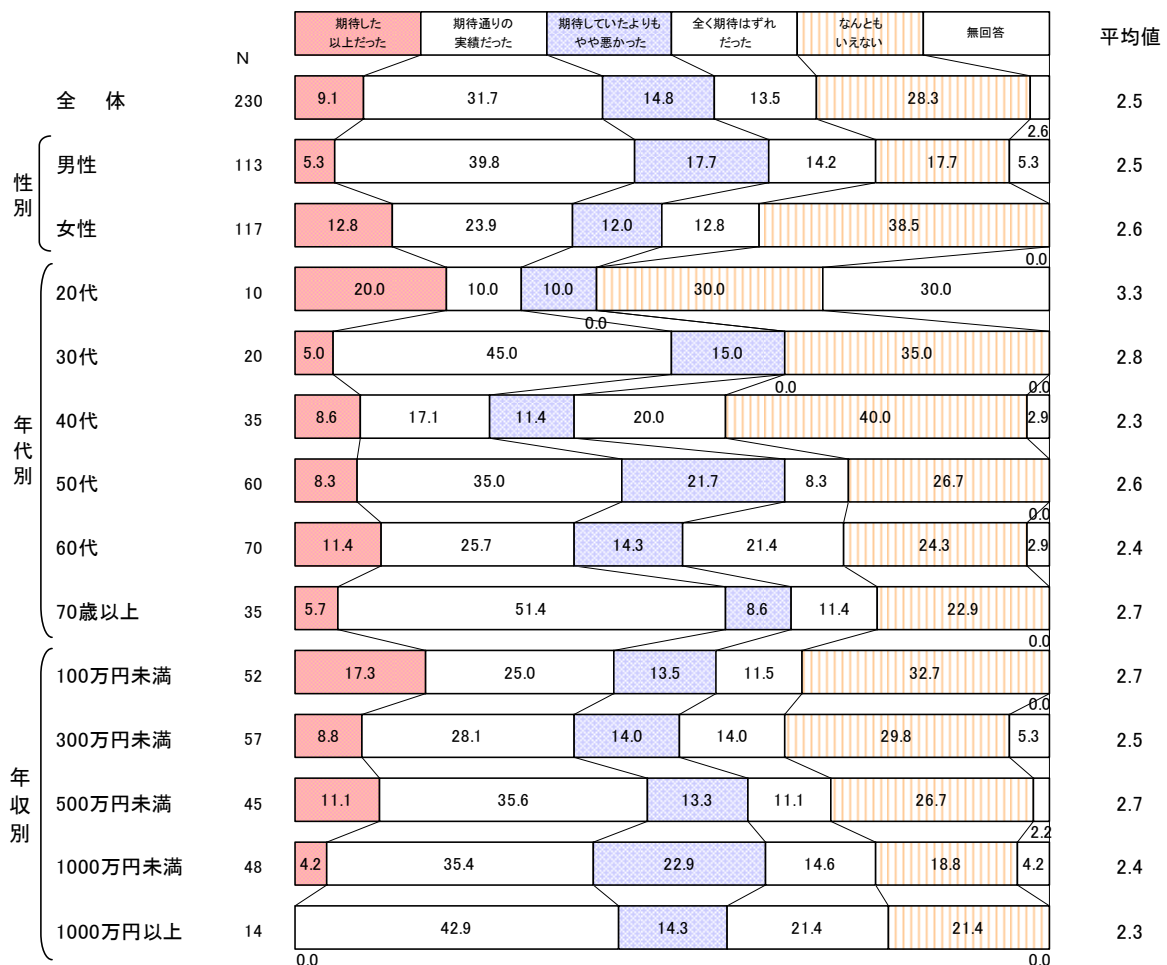
投資信託保有状況別でみると、現在保有層は保有経験層に比べて“期待以上”が高く、“期待以下”が低い。

投資信託保有種類別でみると、“期待以上”は、株式投資信託保有層、公社債投資信託のみ保有層、その他投資信託保有層の順に高い。

【投資信託の運用実績評価(単数回答)／対象者属性別

—現在保有層・保有経験層ベース)

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の運用実績評価(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	期待した以上だった	期待通りの実績だった	期待していたよりもやや悪かった	全く期待はずれだった	なんともいえない	無回答	平均値
保有状況別	全体	230	9.1	31.7	14.8	13.5	28.3	2.6	2.5
	現在保有層	153	13.1	36.6	9.8	7.2	29.4	3.9	2.8
保有種類別	保有経験層	77	1.3	22.1	24.7	26.0	26.0	0.0	2.0
	株式投資信託保有層	87	13.8	41.4	11.5	8.0	25.3	0.0	2.8
	公社債投資信託のみ保有層	29	3.4	41.4	10.3	3.4	41.4	0.0	2.8
	その他投資信託保有層	37	18.9	21.6	5.4	8.1	29.7	16.2	3.0

【参考：平成17年調査結果】

※平成19年調査から調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

(N=329)	
期待した以上だった	2.4
期待通りの実績だった	21.3
期待していたよりもやや悪かった	21.9
全く期待はずれだった	18.8
なんともいえない	35.0
無回答	0.6

(8) 償還・売却資金の流出先

投資信託の償還あるいは売却した資金の流出先は、「預貯金にまわした」が42.2%で最も高く、次いで「生活資金にまわした」(20.9%)、「他の投資信託を購入した」(16.5%)、「株式・債券を購入した」(13.0%)の順となっている。

対象者属性別でみると、性別では大きな差はみられない。

年代別にみると、「預貯金にまわした」は60代(47.1%)で、「他の投資信託を購入した」は50代(23.3%)や70歳以上(28.6%)で高い傾向がみられる。

年収別では「生活資金にまわした」は100万円未満や300万円以上500万円未満の層で高い傾向がみられる。

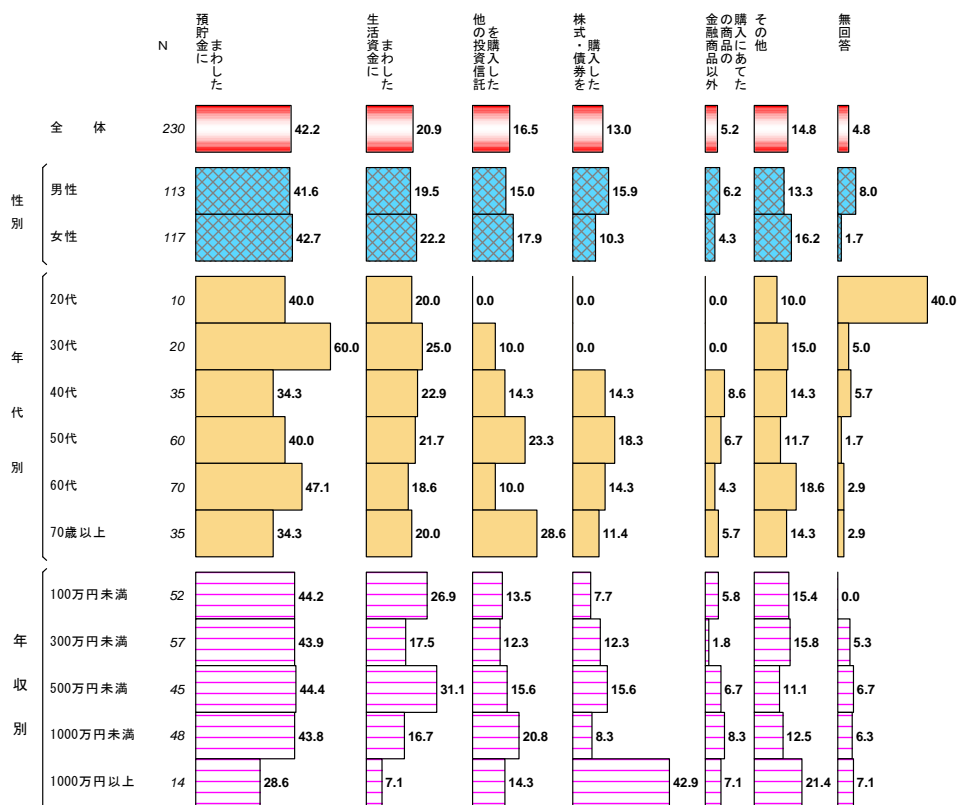
投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べて「他の投資信託を購入した」が高く、「生活資金にまわした」は低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「他の投資信託を購入した」(34.5%)が高く、公社債投資信託のみ保有層は「預貯金にまわした」が62.1%と特に高くなっている。

【償還・売却資金の流出先(重複回答)／対象者属性別

— 現在保有層・保有経験層ベース】

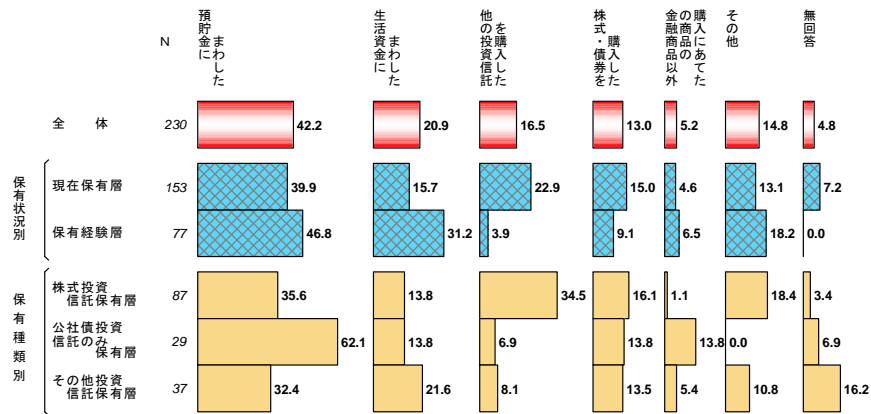
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【償還・売却資金の流出先(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(9) 運用報告書閲読状況

① 運用報告書閲読経験

運用報告書の閲読経験については、「読んだことがある」が 61.7%、「読んだことはない」は 36.1%となっている。

対象者属性別にみると、性別では大きな差はみられない。

年代別でみると、「読んだことがある」は 50代で 75.0%と最も高くなっている。

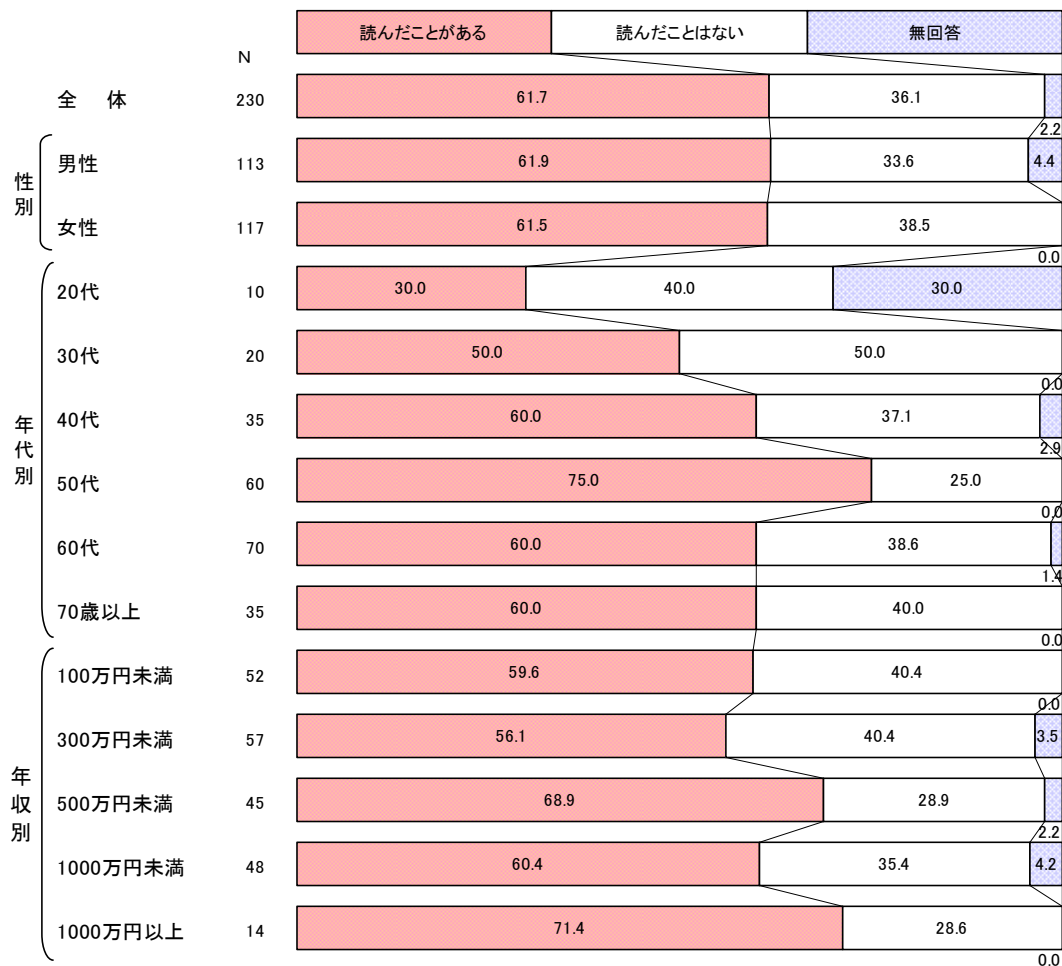
年収別では、各層で閲読経験に多少差がみられるものの、特徴的な傾向はみられない。

投資信託保有状況別でも、現在保有層と保有経験層の間に大きな差はみられない。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層では「読んだことがある」は 65%前後で差はないが、公社債投資信託のみ保有層では閲読経験率が 50%を下回っており、特に低い。

【運用報告書閲読経験(単数回答)／対象者属性別－現在保有層・保有経験層ベース】

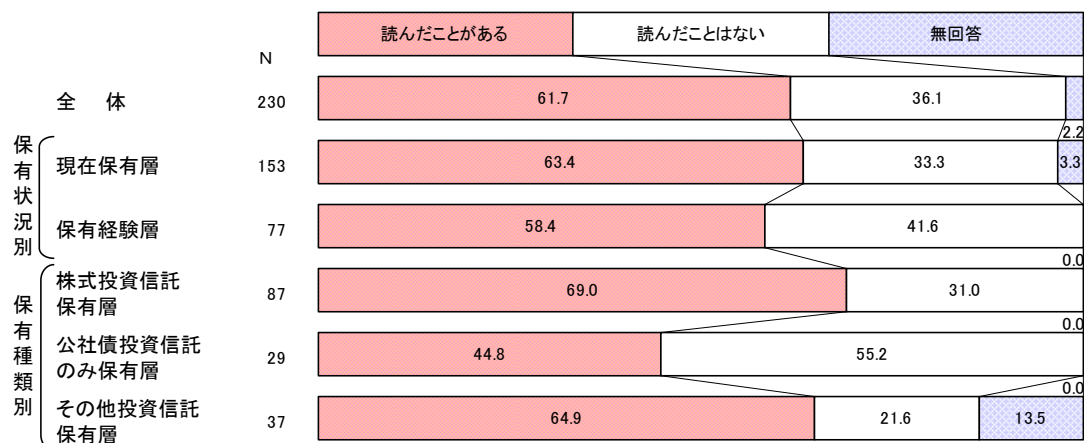
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【運用報告書閲読経験(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



②運用報告書理解状況(現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読経験者)

運用報告書閲読経験者に運用報告書の理解状況を尋ねたところ、「よく理解できた」(4.2%)と「まあまあ理解できた」(47.2%)を合わせた“理解層”は51.4%、「よくわからなかった」(46.5%)と「全くわからなかった」(2.1%)を合わせた“非理解層”は48.6%であり、両者はほぼ拮抗している。

対象者属性別にみると、性別では“理解層”は女性より男性の方が高い。年代別ならびに年収別については、N数(サンプル数)が少ないため、参考データとして掲載する。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層と保有経験層では顕著な差はみられない。

また、投資信託保有種類別でも、特に大きな差はみられない。

【運用報告書理解状況(単数回答)／対象者属性別—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	よく理解できた	まあまあ理解できた	よくわからなかった	全くわからなかった	平均値
全 体		142 100.0	6 4.2	67 47.2	66 46.5	3 2.1	2.5
性別	男 性	70 100.0	6 8.6	38 54.3	25 35.7	1 1.4	2.7
	女 性	72 100.0	- -	29 40.3	41 56.9	2 2.8	2.4
年代別	20代	3 100.0	- -	1 33.3	2 66.7	- -	2.3
	30代	10 100.0	- -	6 60.0	4 40.0	- -	2.6
	40代	21 100.0	2 9.5	9 42.9	10 47.6	- -	2.6
	50代	45 100.0	3 6.7	21 46.7	20 44.4	1 2.2	2.6
	60代	42 100.0	1 2.4	20 47.6	19 45.2	2 4.8	2.5
	70歳以上	21 100.0	- -	10 47.6	11 52.4	- -	2.5
	70歳未満	31 100.0	- -	10 32.3	20 64.5	1 3.2	2.3
年収別	300万円未満	32 100.0	- -	13 40.6	18 56.3	1 3.1	2.4
	500万円未満	31 100.0	1 3.2	17 54.8	13 41.9	- -	2.6
	1000万円未満	29 100.0	2 6.9	17 58.6	9 31.0	1 3.4	2.7
	1000万円以上	10 100.0	3 30.0	6 60.0	1 10.0	- -	3.2
	1000万円未満	10 100.0	3 30.0	6 60.0	1 10.0	- -	3.2

【運用報告書理解状況(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読読経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	よく理解できた	まあまあ理解できた	よくわからなかった	全くわからなかった	無回答	平均値
保有状況別	全体	142	4.2	47.2	46.5	2.1	0.0	2.5
	現在保有層	97	5.2	45.4	47.4	2.1	0.0	2.5
保有種類別	保有経験層	45	2.2	51.1	44.4	2.2	0.0	2.5
	株式投資信託保有層	60	1.7	50.0	46.7	1.7	0.0	2.5
	公社債投資信託のみ保有層	13	15.4	38.5	46.2	0.0	0.0	2.7
	その他投資信託保有層	24	8.3	37.5	50.0	4.2	0.0	2.5

③運用報告書未読理由(現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者)

運用報告書閱讀未経験者に、読んだことがない理由を尋ねたところ、「難しそうだったので」が49.4%で最も高く、次いで「特に興味もなかったのが」37.3%と高い。「発行されていることも知らなかった」は12.0%である。

対象者属性別、投資信託保有状況別、投資信託保有種類別については、N数(サンプル数)が少ないため、参考データとして掲載する。

【運用報告書未読理由(単数回答) / 対象者属性別

—現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

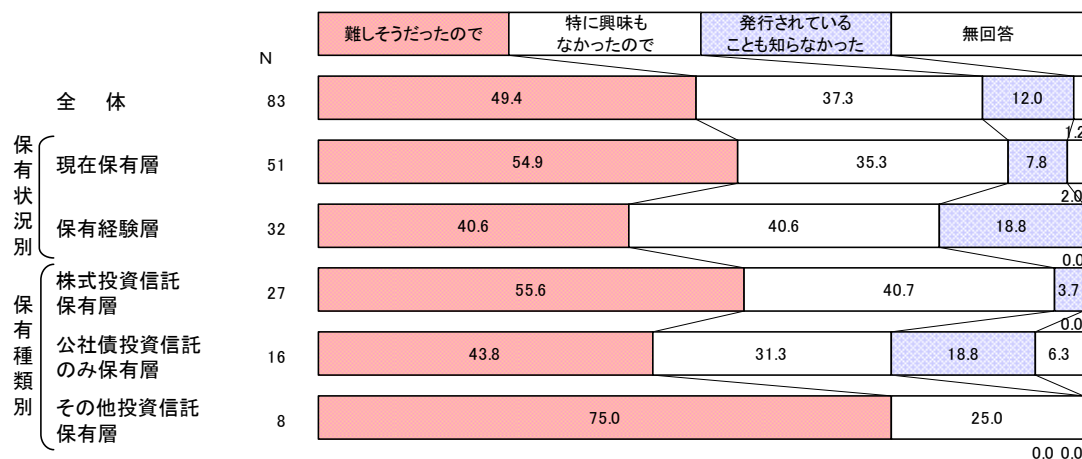
(上段:N)(下段:%)

		全 体	難しそう だったので	特に興味も なかったのが	発行されて いることも 知らなかった	無回答
全 体		83 100.0	41 49.4	31 37.3	10 12.0	1 1.2
性 別	男 性	38 100.0	16 42.1	18 47.4	3 7.9	1 2.6
	女 性	45 100.0	25 55.6	13 28.9	7 15.6	-
年 代 別	20代	4 100.0	-	3 75.0	1 25.0	-
	30代	10 100.0	5 50.0	3 30.0	2 20.0	-
	40代	13 100.0	7 53.8	4 30.8	2 15.4	-
	50代	15 100.0	10 66.7	4 26.7	-	1 6.7
	60代	27 100.0	15 55.6	9 33.3	3 11.1	-
	70歳以上	14 100.0	4 28.6	8 57.1	2 14.3	-
	年 収 別	100万円未満	21 100.0	10 47.6	6 28.6	5 23.8
300万円未満		23 100.0	9 39.1	12 52.2	2 8.7	-
500万円未満		13 100.0	4 30.8	6 46.2	2 15.4	1 7.7
1000万円未満		17 100.0	13 76.5	3 17.6	1 5.9	-
1000万円以上		4 100.0	1 25.0	3 75.0	-	-

【運用報告書未読理由(単数回答) / 保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(10) 評価会社による運用評価の認知・利用状況

評価会社による運用評価については、「評価会社の評価を参考に購入経験あり」は5.2%にとどまる。「評価会社の評価を参考に購入経験あり」と「評価会社の評価を見たことがある」(38.3%)を合わせた“認知率”は43.5%であり、「評価会社があること自体知らなかった」(52.6%)を下回っている。

対象者属性別でみると、性別では「評価会社の評価を見たことがある」は女性の方が高い。

年代別にみると、60代では「評価会社があること自体知らなかった」が74.3%と“認知率”が特に低い。

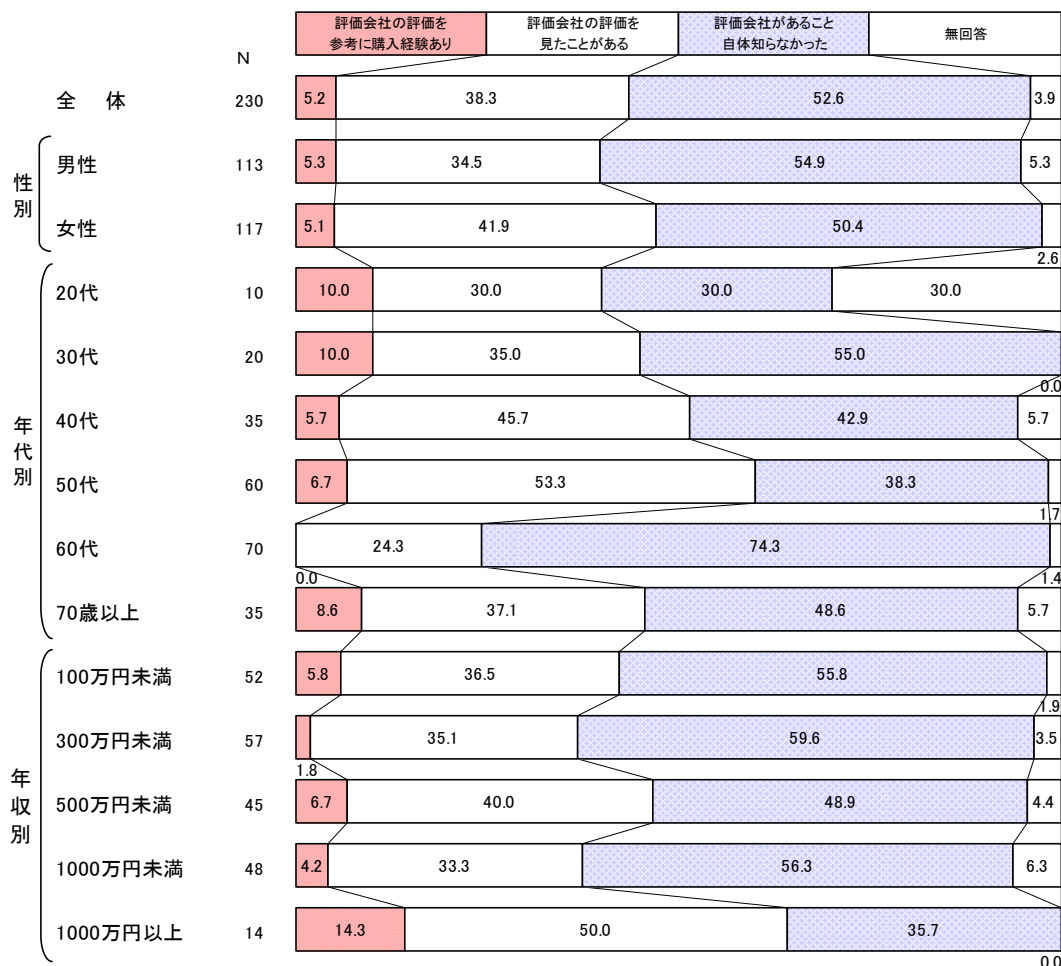
投資信託保有状況別でみると、現在保有層は保有経験層に比べて“認知率”がやや高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層の“認知率”が54.0%と最も高い。

【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)】対象者属性別

— 現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／保有状況・保有種類別

－現在保有層・保有経験層ベース】

		N	評価会社の評価を 参考に購入経験あり	評価会社の評価を 見たことがある	評価会社があること 自体知らなかった	無回答
保有 状況 別	全 体	230	5.2	38.3	52.6	3.9
	現在保有層	153	6.5	39.9	48.4	5.2
保有 種類 別	保有経験層	77	2.6	35.1	61.0	1.3
	株式投資信託 保有層	87	9.2	44.8	44.8	1.1
	公社債投資信託 のみ保有層	29	0.0	27.6	69.0	3.4
	その他投資信託 保有層	37	5.4	37.8	40.5	16.2

(11) 投資信託の優れていると感じる点

他の金融商品と比較して投資信託が優れている点(重複回答)は、「専門知識がなくても投資ができる」(50.0%)と「比較的高い利回りが期待できる」(49.6%)がほぼ同率で二大優位点といえる。次いで「定期的に分配金が受け取れる」(43.0%)、「少額でも株式投資の面白味がある」(33.5%)、「購入手続きが簡単である」(30.4%)の順に高い。

対象者属性別にみると、性別で大きな差がみられるのは「定期的に分配金が受け取れる」と「分配金が自動的に複利に回る商品がある」であり、いずれも男性より女性の方が高い。

年代別では、「購入手続きが簡単である」「積立投資ができる」「海外投資が手軽にできる」は40代以下の若年層を中心に高い傾向がみられる。「種類が豊富で目的に応じて選べる」は40代、「定期的に分配金が受け取れる」は50代以上で高い。

年収別では、「定期的に分配金が受け取れる」「分配金が自動的に複利に回る商品がある」は年収が低い層で高い傾向がみられる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「比較的高い利回りが期待できる」が58.2%と最も高い項目であり、保有経験層の32.5%を大きく上回っている。また、「定期的に分配金が受け取れる」も保有経験層より高いが、「少額でも株式投資の面白味がある」や「積立で投資ができる」は保有経験層の方が高い。

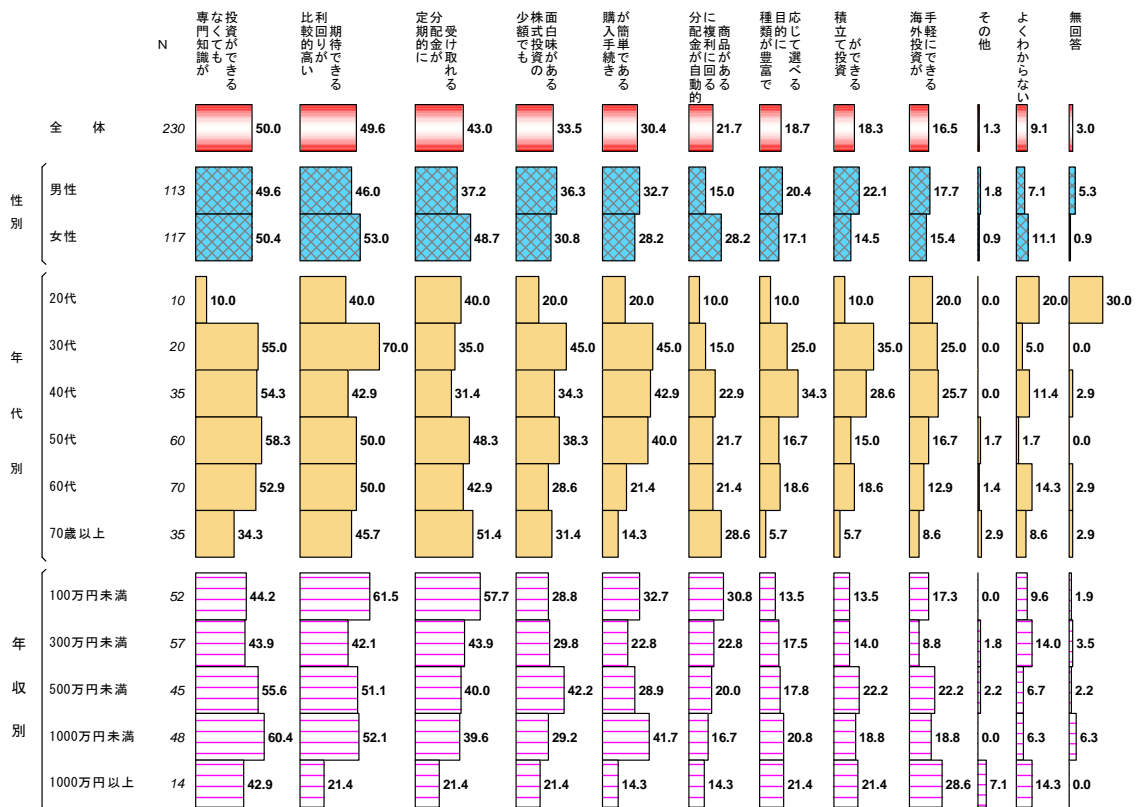
投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層では「定期的に分配金が受け取れる」「分配金が自動的に複利に回る商品がある」が他層より高い。公社債投資信託のみ保有層は他層に比べて「比較的高い利回りが期待できる」は高いが、「分配金が自動的に複利に回る商品がある」は低い。

なお、投資信託が優れていると感じる点のうち、特に魅力を感じる点(単数回答)としては、「比較的高い利回りが期待できる」(27.8%)が最も高く、次いで「定期的に分配金が受け取れる」(20.0%)が高い。重複回答でトップの「専門知識がなくても投資ができる」は、単数回答では14.3%で第3位となっている。

【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／対象者属性別

—現在保有層・保有経験層ベース

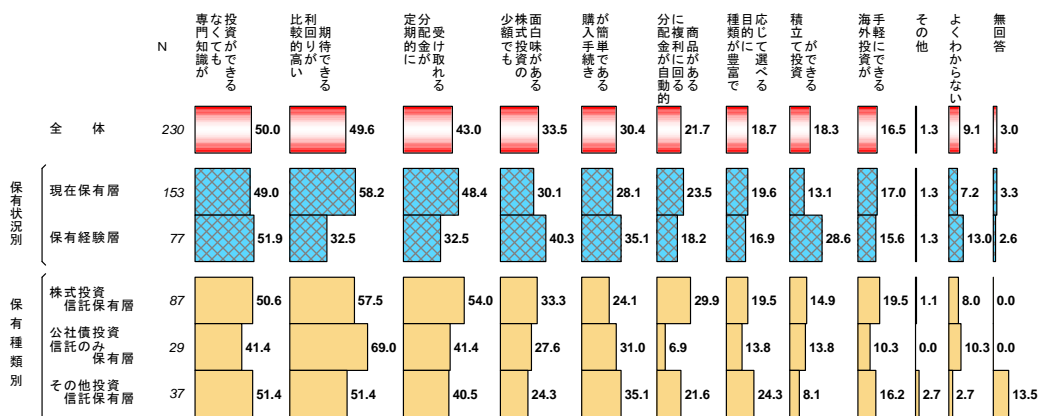
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

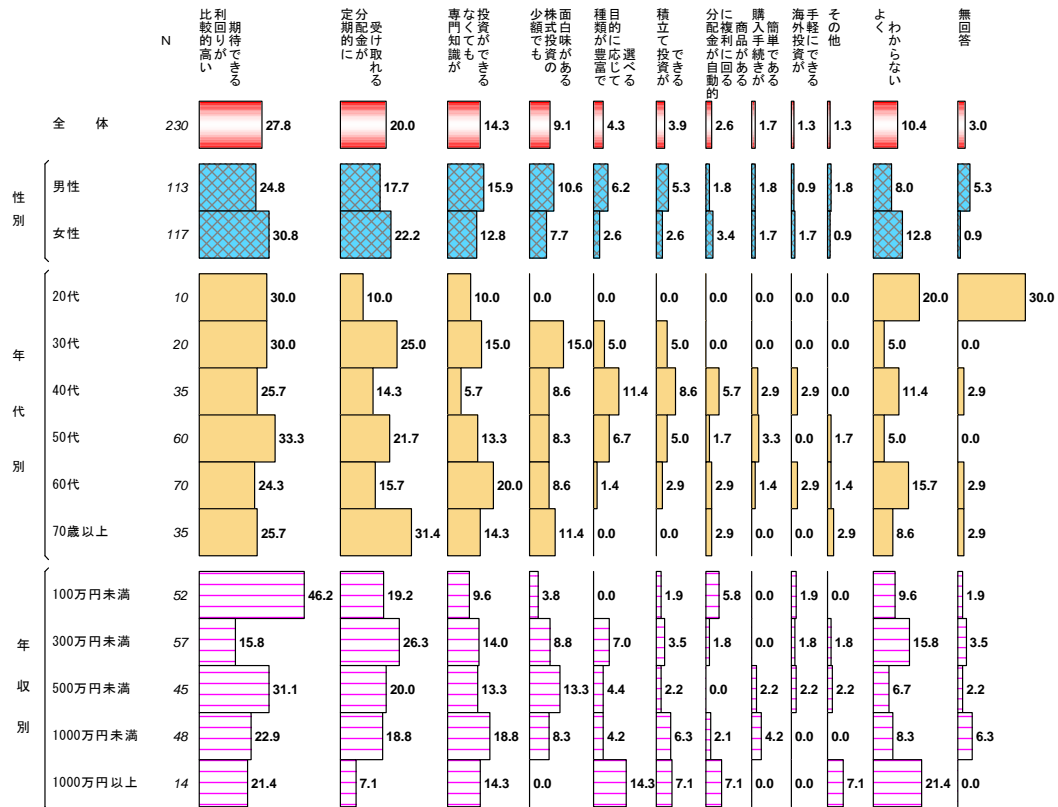


【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／対象者属性別】

—現在保有層・保有経験層ベース—

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1
つ
だ
け

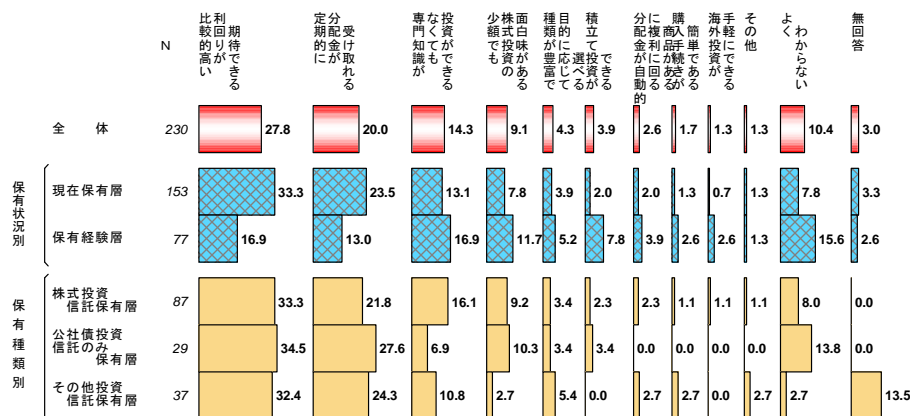


【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／保有状況・保有種類別】

—現在保有層・保有経験層ベース—

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1
つ
だ
け



(12) 投資信託の不満を感じる点

①対象者属性別・保有状況別の不満を感じる点

投資信託の不満を感じる点(重複回答)は、「元本保証がない」が58.7%で最も高く、次いで「手数料が高い」が36.5%と高い。

対象者属性別にみると、性別では、女性は男性に比べて「元本保証がない」「購入後の運用に関する情報が少ない」などが高いが、「株式に比べて面白さに欠ける」は男性の方が高い。

年代別では、「元本保証がない」は50～60代、「手数料が高い」は40～50代で特に高い。

年収別では、「元本保証がない」は100万円未満の層で高い。100万円未満の層では他にも「種類が多く選択に迷う」「公社債に比べて安心できない」「購入後の運用に関する情報が少ない」なども他層に比べて高くなっている。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層、保有経験層ともに「元本保証がない」が最も高いが、現在保有層では「手数料が高い」が保有経験層に比べて高い。一方、「株式に比べて面白さに欠ける」「利回りがもの足りない」は、保有経験層の方が高い。

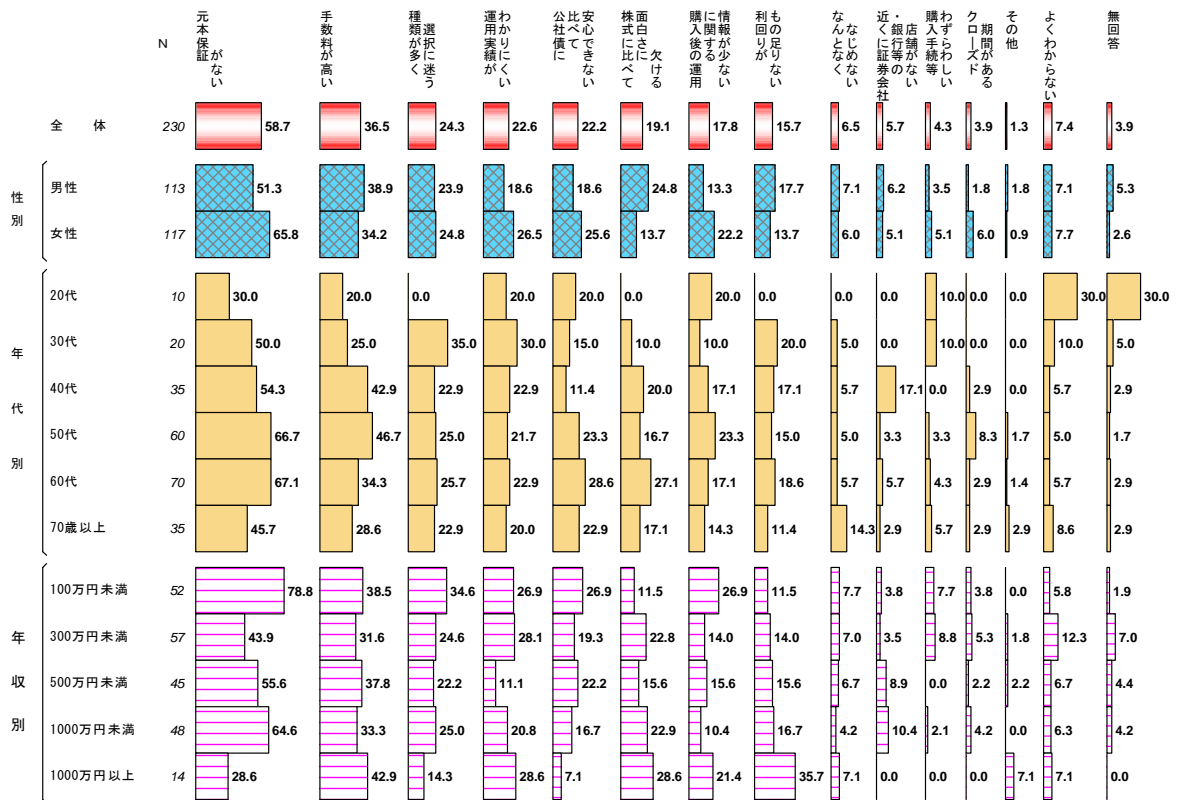
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他層に比べて「手数料が高い」が特に高く、「購入後の運用に関する情報が少ない」も高い。

なお、投資信託の不満を感じる点のうち、特に不満を感じる点(単数回答)でも「元本保証がない」(35.2%)が最も高く、次いで「手数料が高い」(17.0%)となっており、この2項目でほぼ半数を占めている。

【投資信託の不満を感じる点(重複回答)】対象者属性別

ー現在保有層・保有経験層ベース

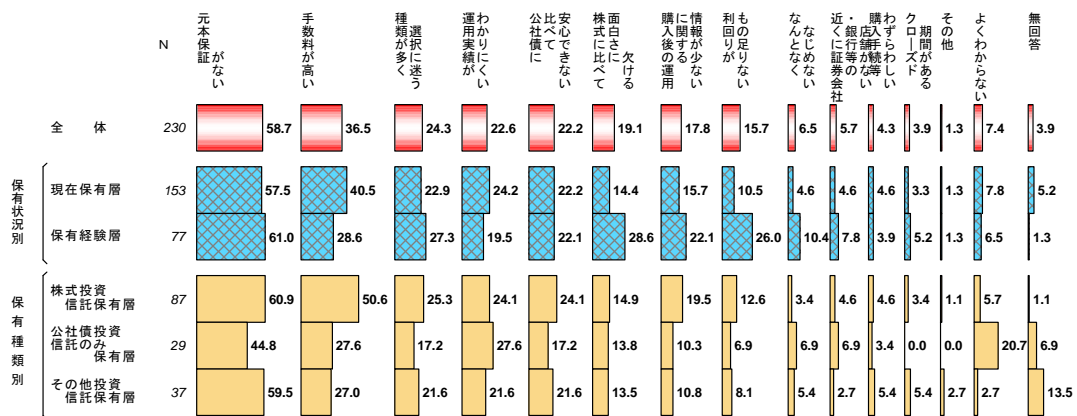
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の不満を感じる点(重複回答)】保有状況・保有種類別

ー現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

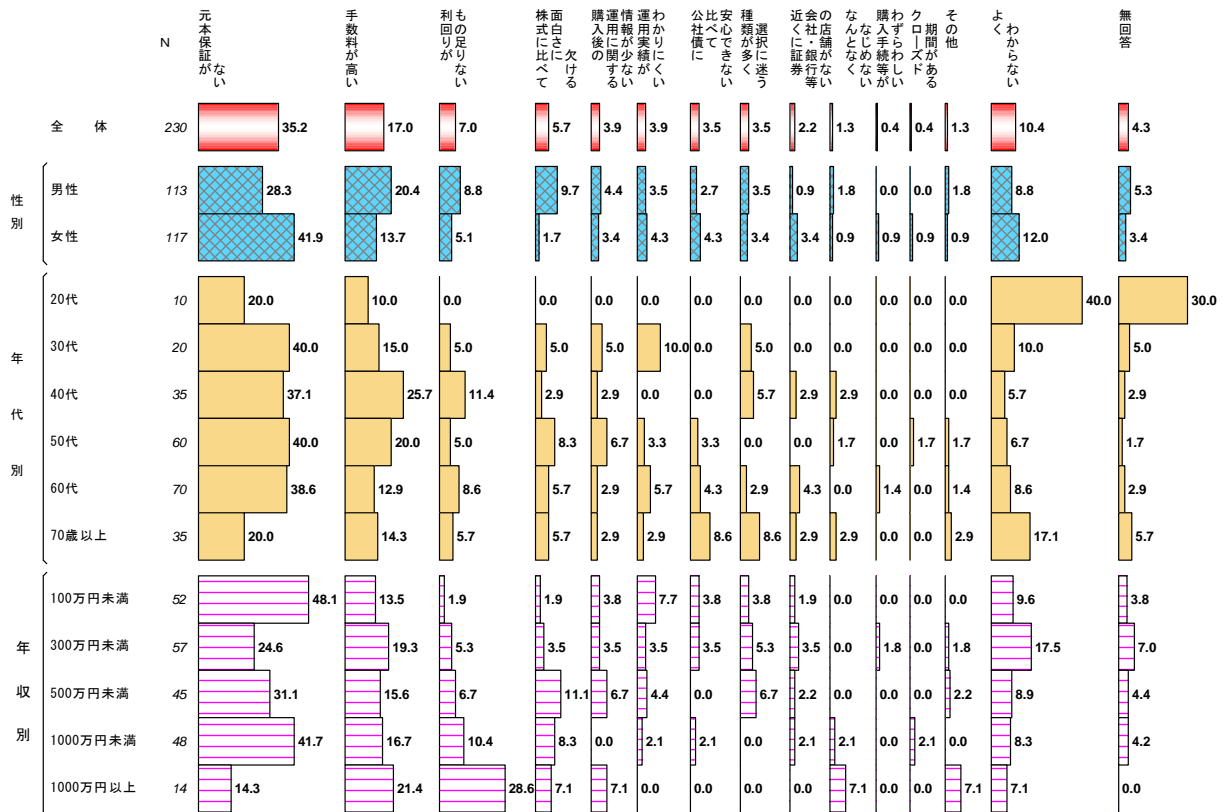


【投資信託の特に不満に感じる点(単数回答)／対象者属性別

—現在保有層・保有経験層ベース)

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1
っ
だ
け

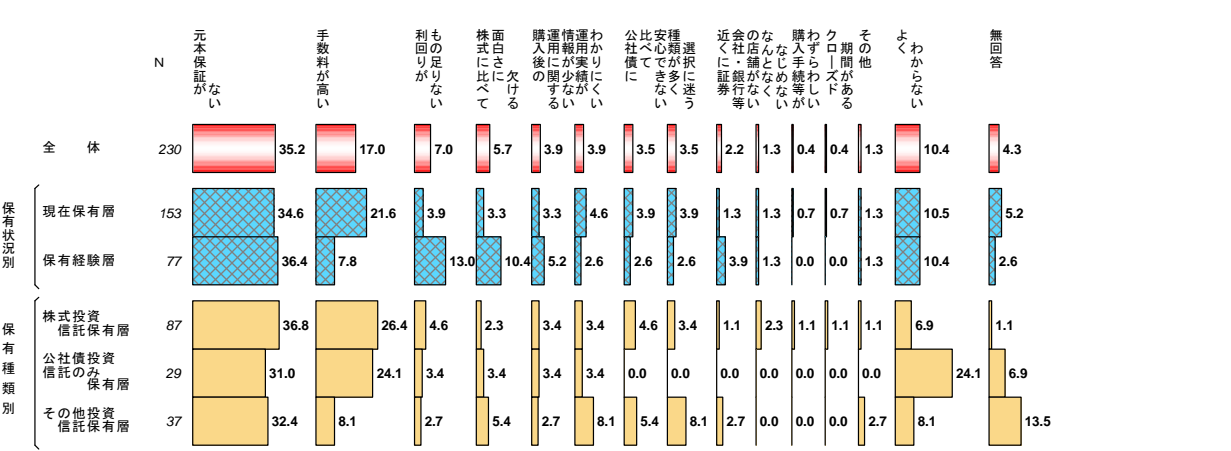


【投資信託の特に不満に感じる点(単数回答)／保有状況・保有種類別

—現在保有層・保有経験層ベース)

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1
っ
だ
け



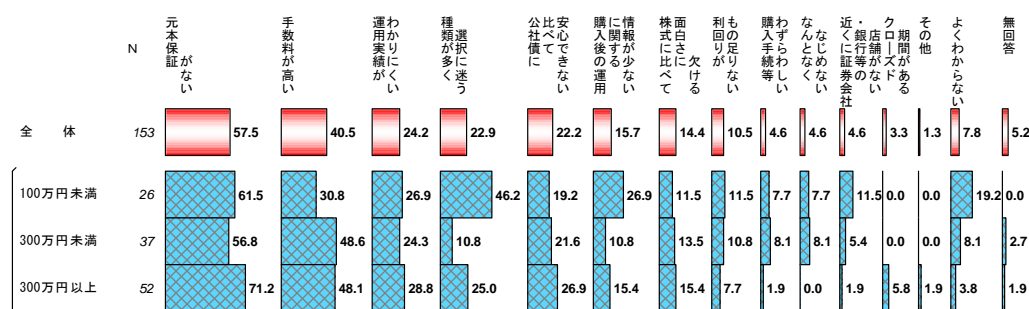
②投資信託投資合計額別の不満を感じる点（現在保有層）

投資信託現在保有層に限定して、投資信託への投資合計額別(10 ページ参照)に、不満点（重複回答）をみると、いずれの層でも「元本保証がない」が最も高いが、投資合計額が300万円以上の層では他の層に比べて高い傾向にある。一方、100万円未満の層では、他層に比べて「手数料が高い」は低い、「種類が多く選択に迷う」「購入後の運用に関する情報が少ない」は高い。また、投資合計額が低い層ほど「よくわからない」が高い傾向がみられる。

なお、特に不満を感じる点（単数回答）をみると、投資額が高額になるほど「手数料が高い」が高くなる傾向にある。

【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／投資信託投資合計額別—現在保有層ベース】

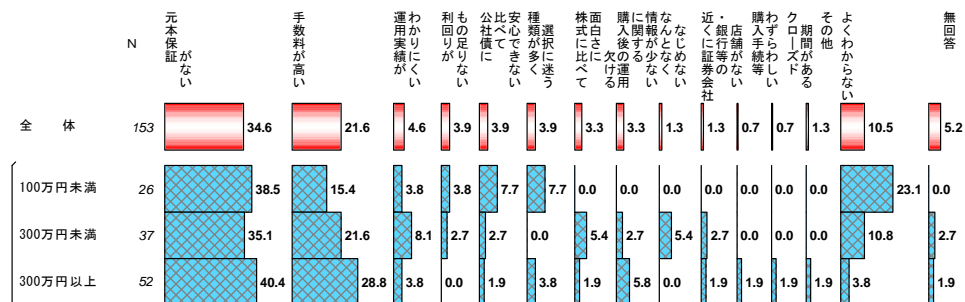
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の特に不満を感じる点(単数回答)／投資信託投資合計額別

—現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



5. 投資信託保有未経験者の状況

(1) 投資信託の購入意向経験

投資信託を認知しているにも関わらず、これまでに投資信託を購入したことがない人に対し、投資信託を購入したいと思ったことがあるかを尋ねたところ、「ある」は12.7%に留まった。

対象者属性別にみると、性別では購入意向率に大きな差はみられない。

年代別でみると、40～60代では「ある」が15%前後を占め比較的高いが、20代や70歳以上では10%未満と低くなっている。

年収別でみると、「ある」は500万円以上1000万円未満の層で21.6%と、他の層に比べて高い。

【投資信託の購入意向(単数回答)／対象者属性別－投資信託認知者・保有未経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 投資信託の非購入理由

投資信託保有未経験者で、購入しなかった理由については、「投資信託がよくわからないので不安」が65.9%、次いで「元本保証がない」(34.3%)、「少額では購入しづらい」(22.6%)の順となっている。

投資信託保有状況別でみると、購入意向層、非購入意向層とも「投資信託がよくわからないので不安」(それぞれ、56.8%、67.2%)が最大理由となっているが、購入意向層は非購入意向層に比べこの比率がやや低い。一方、「元本保証がない」「少額では購入しづらい」「株式と同様に値上がり・値下がりが激しい」「商品の種類が多く自分で選択できない」などは購入意向層の方が非購入意向層に比べ高い。

なお、保有未経験・購入意向層を対象者属性別にみると、性別では、「投資信託がよくわからないので不安」「元本保証がない」「商品の種類が多く自分で選択できない」は男性に比べて女性の割合が高い。

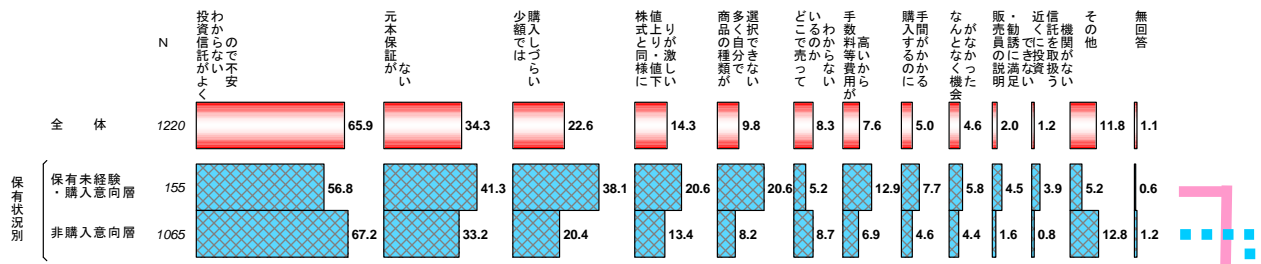
一方、非購入意向層を対象者属性別にみると、性別では、「投資信託がよくわからないので不安」が男性に比べて女性の割合が高い。

年代別でみると、「投資信託がよくわからないので不安」は20代、30代で、「元本保証がない」は40代以上の層で高い。「少額では購入しづらい」は40代、「株式と同様に値上がり・値下がりが激しい」は50代を中心に高くなっている。

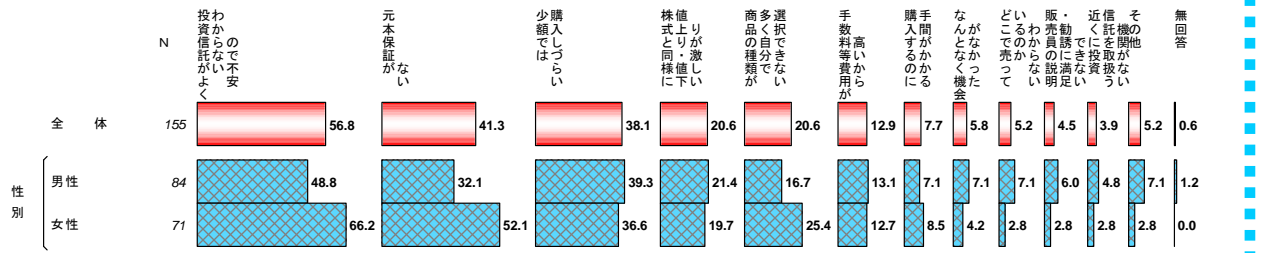
年収別では、「投資信託がよくわからないので不安」は年収が低いほど、「元本保証がない」は年収が高いほど、割合が高くなる傾向がみられる。

【投資信託の非購入理由(重複回答)】

／投資信託購入意向別－投資信託認知者・保有未経験層ベース】



【投資信託の非購入理由(重複回答)】／対象者属性別－保有未経験・購入意向層ベース】



【投資信託の非購入理由(重複回答)】／対象者属性別－非購入意向層ベース】

